

弘前藩の刑法典（二十）——文化律——

橋本久

目次

はじめに

一 安永律

付1 『御刑罰御定』（安永律）〔第六号〕

付6 『要記秘鑑』三十三 安永四年八月二十六日条

〔第二十号〕

二 寛政律

(一) 『御刑法書之写』〔第七号〕

(二) 『寛政律』（その一）〔第八号〕

(三) 『寛政律』（その二）〔第十一号〕

(四) 『寛政律』（その三）

付2 『隠商過料定牒』

付3 『人別方御用取扱条例』『人別調方取扱条例』

〔第十三号〕

(五) 『寛政律』（その四）

補訂1 『藩法史料集成』所収「弘前藩御刑法牒」

〔第十四号〕

(六) 『寛政律』（その五）

付4 『諸取引御触書』『公義御書付留』『公義御触書留』

付5（参考）『公事訴訟取捌』〔第十五号〕

(七) 『寛政律』（その六）〔第十七号〕

(八) 『寛政改正御刑法帳』〔第十九号〕

(九) 『寛政改正 刑律』〔第二十号〕

付6 『要記秘鑑』三十三 〔第十七・十九・二十号〕

料

資

- (十) 『寛政九年 刑法』 (第二十一号)
 - (十一) 『法律秘略』 (第二十二号)
 - 付7 『要記秘鑑』三十四 [第二十一・二十二号]
 - (十二) (寛政律) (第二十三号)
 - 付8 『御用格』二十一 (第二十五号)
 - (十三) 『和律』 (第二十七号)
 - 付9 『御用格』二十二 (第二十九号)
 - (十四) 『御用法牒』 (第三十一号)
 - 付10 『御用格』二十三・二十四
 - (十五) 『刑律』 (第三十二号)
 - (十六) 『旧津整藩 刑法』 (第三十三号)
 - 補訂2 『隠商過料定牒』 (本号)
- 三 文化律
- (一) 『刑法』 (第三十二号)
 - (二) 『御用法牒』 (その一) (第三十三号)
 - (三) 『御刑法牒』 (その二) (本号)
 - (四) 『御刑法帳』
 - (五) 『文化律』

三 文化律

(三) 『御刑法牒』 (その一)

凡例

- 一 原本は弘前市立図書館所蔵本を用いた。
- 一 字体・字配りは、できるかぎり原本にしたがった。異体字・変体仮名については、かならずしも原本通りではない。
- 一 原本の行末が次行に及んだ場合は、行末を示すために「をくわえた。
- 一 原本の丁数・表裏を各終行末に「」で示した。
- 一 便宜上、各條に一、二、三、……等の数字を付した。
- 一 他に適宜書き加えた箇所は「」で示した。
- 一 塗抹の箇所は、左に々を付した。

弘前藩の刑法典 (三)

四	一	科人者頭取同類ヲ以可別事	(五)
四	一	主殺親殺科人之忤親類預置 _レ 内出家願出 _ル 者之事	(四)
三	一	老人幼少者并片輪者御刑捌之事 _{〔註〕}	(三)
二	一	過料定之事	(二)
一	一	御刑法名目之事	(一)

文化御改
御刑法定例目錄

要記秘鑑 三十二 御刑法幞

〔表紙〕

〔縦 23.2cm 横 16.2cm〕

九	一	拾ひ物取斗ひ之事	(二四)
九	一	村方戸ノ無之事	(二三)
八	一	旧惡御仕置之事	(二二)
八	一	誤證文押テ取申間敷事	(二一)
八	一	取押物之事	(二〇)
八	一	身限申付方之事	(一九)
七	一	闕所之事	(一八)
六	一	同類之内出奔有之片口ニ相成候者之事	(二七)
六	一	不義之財物取捌之事	(二六)
六	一	女罪ヲ犯候節捌之事	(二五)
六	一	本罪ヨリ輕キ御仕置之事	(二四)
六	一	本罪ヨリ重キ御仕置之事	(二三)
五	一	罪科之者ニ寄本罪ヨリ幾等モ輕ク可申付捌之事 _{〔目錄一オ〕}	(二二)
五	一	親族名目之事	(一一)
五	一	親族者罪ヲ隱候テモ御用捨之事	(一〇)
五	一	惡黨者訴人之事	(九)
五	一	科人自身申出候節捌之事	(八)
四	一	五軒組合江過料可申付箇条之事	(七)
四	一	壹人ニテ二罪有之者之事	(六)

料 九 一 科人出奔之節尋之事 (二五)

九 一 拷問可申付者之事 (二六)

十 一 人相書ヲ以御郡内御尋可相成者之事 (二七)

資 十 一 重き科人死骸塩詰之事 (二八)

十 一 輕き惡事有之者出牢之上咎不及事 (二九)

十 一 名目重ク相聞得候其實ニ於テ強テ人之害ニ不成者ハ (三〇)

罪科輕重格別之事

十一 一 吟味之内外之惡事相聞得候共旧惡御定之外者 (三一)

相糺不及事

十一 一 年月定之事 (三二)

十一 同御刑法捌目錄

十一 一 隱田畑御仕置之事 (三三)

十一 一 田畑質入年賦引當小作取捌之事 (三四)

十三 一 田畑質地年賦引當等ニテ借用之采金錢滯濟方 (三五)

日限定之事

十四 一 田畑押領御仕置之事 (三六)

十四 一 田畑屋鋪共坪違讓渡候者御仕置之事 (三七)

十四 一 双方申合勝手ニ寄田畑取替取持之者御仕置之事

十四 一 銘々持抱田畑潰地ニ致候者御仕置之事 (三八)

十四 一 青田を賣渡候者御仕置之事 (三九)

十四 一 荅抱之田畑分地致讓渡候者御仕置之事 (四〇)

十四 一 采金錢貸借捌之事 (四一)

十五 一 借金銀分散申付方之事 (四二)

十六 一 家質金錢滯日限定之事 (四三)

十六 一 二重質二重書入二重賣御仕置之事 (四四)

十七 一 偽之證文を以采金錢質借致候者御仕置之事 (四五)

十七 一 御收納遲滯之者御仕置之事 (四六)

十七 一 御用物内借御仕置之事 (四七)

十七 一 闕所ニ可成田畑家屋鋪隱置候村役町役御仕置之事 (四八)

十七 一 人別帳江不加他之者差置候者御仕置之事 (四九)

十七 一 煩候旅人を宿送致候御仕置之事 (五〇)

十八 一 御印紙并御切紙御印札紛失之者御仕置之事 (五一)

十八 一 御閑所忍通候者御仕置之事 (五二)

十八 一 立帰者御仕置之事 (五三)

十九 一 隱津出并隱荷揚致候者御仕置之事 (五四)

二十 一 采出所無手形采忍通候者御仕置之事 (五五)

二十 一 采出所無手形采忍通候者御仕置之事 (五六)

弘前藩の刑法典 (三)

二一	一	隱商賣致候者御仕置之事	(七五)
二一	一	廻船荷物出賣出買致候者并船荷物致押領候押御仕置之事	(五八)
二二	一	盜賊御仕置之事	(五九)
二四	一	自分預物私曲致候者御仕置之事	(六〇)
二四	一	御藏之財物を盜取候者御仕置之事	(六一)
二五	一	雅船等之等亂妨致候者御仕置之事	(六二)
二五	一	度々盜致候者御仕置之事	(六三)
二五	一	盜人を擄捕不訴出者御仕置之事	(六四)
二五	一	盜賊之宿致候者御仕置之事	(六五)
二六	一	盜物質ニ取候者并預候者又ハ賣買致候者御仕置事	(六六)
二七	一	入墨拔取候者御仕置之事	(六七)
二七	一	金子遺捨候飛脚御仕置之事	(六八)
二七	一	火附御仕置之事	(六九)
二八	一	牛馬盜人御仕置之事	(七〇)
二八	一	無札之馬賣買并馬札紛失致候者御仕置之事	(七一)
二八	一	盜杣御仕置之事	(七二)
三三	一	洪水之節流失木隱揚致候者御仕置之事	(七三)
三二	一	田畑之穀物盜取致候者御仕置之事	(七四)

卅一	一	一人ヲ勾引ル者御仕置ノ事	(七五)
卅一	一	謀書謀判致候者御仕置之事	(七六)
卅一	一	巧事加 _(ふたり) 里事ノ重キ袴 _(ふたり) 里事致候者御仕置事	(七七)
卅一	一	役人を似セ候者御仕置事	(七八)
卅一	一	帶刀致候百姓町人御仕置之事	(七九)
卅一	一	贖金銀ヲ拵候者并錢ヲ鑄候者御仕置之事	(八〇)
卅一	一	贖升贖秤を拵候者御仕置之事	(八一)
卅一	一	贖藥種商賣致候者御仕置之事	(八二)
卅一	一	賄賂ヲ受不筋之捌扱致候者御仕置之事	(八三)
卅一	一	賄賂ヲ受候斗ニテ不筋之扱捌無之者御仕置事	(八四)
卅一	一	不筋之財物ヲ取候者御仕置之事	(八五)
卅一	一	賄賂之致約諾候者御仕置之事	(八六)
卅一	一	賄賂を贈候者御仕置之事	(八七)
卅一	一	茂合取立致私曲候者御仕置之事	(八八)
卅一	一	拾ひ物致シ不訴出者御仕置之事	(八九)
卅一	一	宥意ヲ以人ヲ殺候者并疵付候者御仕置之事	(九〇)
卅一	一	宥意ヲ以主人或ハ主人之親族古主ヲ殺候者又ハ為手負候者御仕置事	(九一)

料

卅八 一 宥意ヲ以親或ハ親族ヲ殺候者并手負セ候者御仕置之事
〔九二〕

四十 一 宥意ヲ以師匠ヲ殺候者并疵付候者御仕置之事
〔九三〕

資

四十 一 宥意ヲ以支配を受候頭分之者ヲ殺候者并疵付候者御仕置事
〔九四〕

四十 一 一家之内三人を殺候者御仕置之事
〔九五〕

四十 一 咒咀調伏毒藥等を以人を殺候者并苦志め候者御仕置事
〔九六〕

四十 一 喧嘩喧嘩打擲ニテ人ヲ殺候者御仕置之事
〔九七〕

四十 一 危キ仕業を致人を殺候者御仕置之事
〔九八〕

四十 一 一人た可たかへ致別人を殺候者御仕置之事
〔九九〕

四十 一 怪我ニテ人を殺或者疵付候者御仕置之事
〔一〇〇〕

四十 一 罪有之妻妾を殺候者御仕置之事
〔一〇一〕

四十 一 離別之妻へ疵付候者御仕置之事
〔一〇二〕

四十 一 弓鉄炮ニテ人を殺候者御仕置之事
〔一〇三〕

四十 一 牛馬ニテ人を殺或ハ疵付候者御仕置之事
〔一〇四〕

四十 一 人を威シ逼セテ死ヲ致サ志むるもの御仕置之事
〔一〇五〕

四十三 一 辻切致候者御仕置之事
〔一〇六〕

四十三 一 僧侶人を殺候即并疵付候即御仕置之事
〔一〇七〕

四十三 一 人殺内濟致候者御仕置之事
〔一〇八〕

四十五 一 喧嘩打擲御仕置之事
〔一〇九〕

四十六 一 疵療治之事
〔一一〇〕

四十六 一 主人下人を打擲致候者主人怪我ニテ下人を殺候者御仕置事
〔一一一〕

四十六 一 妻妾夫を致打擲候者御仕置之事
〔一一二〕

四十七 一 親族打擲御仕置之事
〔一一三〕

四十七 一 致師匠ヲ打擲候者御仕置之事
〔一一四〕

四十七 一 父母人ニ被打擲其子孫返打致候者御仕置之事
〔一一五〕

四十八 一 支配を受候頭分ヲ致打擲候者御仕置之事
〔一一六〕

四十八 一 訴訟御仕置之事
〔一一七〕

四十八 一 不實之事を訴候者御仕置之事
〔一一八〕

四十九 一 主人を相訴候者并親族訴候者御仕置之事
〔一一九〕

四十九 一 父祖之教ニ背候者御仕置之事
〔一二〇〕

五十 一 訴訟之致腰推候者御仕置之事
〔一二一〕

五十 一 強訴御仕置之事
〔一二二〕

五十 一 密通御仕置之事
〔一二三〕

五十二 一 女犯之僧御仕置之事
〔一二四〕

弘前藩の刑法典 (三)

五十三	一	男女申合相 ^皇 候者御仕置之事	(一二五)
五十三	一	隠賣女御仕置之事	(一二六)
五十三	一	捨子之儀ニ付御仕置之事	(一二七)
五十四	一	博奕御仕置之事	(一二八)
五十四	一	御用事を頼合致候者御仕置之事	(一二九)
五十五	一	失火御仕置之事	(一三〇)
五十五	一	野火御仕置之事	(一三一)
五十五	一	御留場ニテ鳥致殺生候者御仕置之事	(一三二)
五十五	一	於御停止場鉄炮打候者御仕置之事	(一三三)
五十六	一	御觸ニ背候者御仕置之事	(一三四)
五十六	一	科人致手向候者御仕置之事	(一三五)
五十六	一	囚人出奔致セ候者御仕置之事	(一三六)
五十六	一	徒刑之者再犯御仕置之事	(一三七)
五十六	一	科人為立退并住居隠候者御仕置之事	(一三八)
五十七	一	無看者御片付之事	(一三九)
五十七	一	御裁許不請者御仕置之事	(一四〇)
五十八	一	不縁之妻ヲ理不尽ニ奪取候者御仕置之事	(一四一)
五十八	一	変死之者内證ニテ葬候寺院御仕置之事	(一四二)
五十八	一	倒死并捨物手負病人等有之を不訴出者御仕置之事	(一四三)

五十八 一 人之罪を輕重致候者御仕置之事
 五十八 一 御刑法仕方之事

(五行余白)

(一四四)
 (一四五)

(目錄五之)

料 御刑法牒 定例

○御刑法名目

(一)

○戸ノ五等

資 寛政之御例

一 戸ノ五日 戸ノ十日 戸ノ十五日 戸ノ廿日 戸ノ三十日

但子兄弟或ハ奉公之類戸ノ難相成者ハ右之日数之通過料人夫或ハ戸ノあかなひ之箇条を以過料錢為差出ル事

○敲三等

寛政之御例斟酌

一 五敲 十敲 十五敲

○敲之上追放五等

寛政之御例

一 十八敲所拂 廿一敲三里追放 廿四敲五里追放

廿七敲七里追放 三十敲十里追放大場御構

但追放ハ十八敲以上ニハ得共其罪之子細ニ依り其所ニ

難差置者ハ敲之数ニ不拘所拂可致事

(本文一才)

○敲之上徒三等

寛政之御例

一 三十敲徒半年 三十敲徒壹年 三十敲徒壹年半

○死罪六等

御定書

一 下死人 死罪 斬罪 獄門 磔 火罪

○過料定之事

(一)

追加

戸ノ五日ハ過料六百文 戸ノ十日ハ過料九百文

戸ノ十五日ハ過料壹貫二百文 戸ノ廿日ハ過料壹貫五百文

文

戸ノ三十日ハ過料壹貫八百文

寛政之御例

五敲ハ三貫六百文 十敲ハ四貫八百文

十五敲ハ過料六貫文 十八敲之上所拂ハ過料十二貫文

廿一敲三里追放ハ過料十五貫文 廿四敲五里追放ハ過料十八貫文

廿七敲七里追放ハ過料二十貫文 三十敲十里追放ハ過料廿四貫文

一貫文

三十敲之上徒半年ハ過料卅貫文

卅敲之上徒壹年ハ過料卅三貫文

一貫文

一貫文

卅敲之上徒老年半ハ過料卅六貫文

右過料之儀ハ老人幼少者并片輪者之類罪ニ難行者或ハ怪

我ニ而「人江疝付ヒ類右ヶ条江引合相當之過料為差出可申事」

申事」

一 老人幼少者片輪者之分主殺親殺之外死罪ヲ犯ヒ節者

永牢

一 怪我ニ而人ヲ殺ヒ者過料四十二貫文為差出可申事

寛政之御例并文化元年之御例斟酌

一 過料錢上納方貧困ニ而御定日限ル相滯ヒ者錢高三貫

文迄ハ日數三十日夫役ニ徒カひ可申事右以上之錢高相滯

ハ分者銅鈔銅山江差遣一日六十文之積ヲ以苦使為致可申事

一 老人幼少者并輪片者夫役苦使ニ難相成者ハ錢高

三貫分迄之過料相滯ヒ分ハ日數三十日慎可申付事

五敲之上過料三貫六百文以上十五敲之上過料六貫文

迄之過料上納滯ヒ分ハ一日六十文之積ヲ以日數慎可申付

事」

十八敲所拂之過料十二貫文以上怪我ニ而人を殺ヒ者の

過料四十二貫文迄之上納相滯ヒ分ハ一日六十文之積を以

日」數牢舍之上用捨可致事

但入牢被仰付助命無覺束類其外子細有之分ハ時宜

御沙汰之事

一 村方預御山ニ盜袖有之類村中江過料上納被仰付、処御

定」日限ル相滯ヒ得ハ村役戸ノ之上相滯ヒ錢高多少ニ寄

日三十文之積ヲ以村方夫役人夫差出させ可申事

御定書

一 過料

三貫文

五貫文

但重キ八十貫文又ハ二十兩三十兩其者之身上ニ隨ヒ或

ハ村高」應シ員數相立三日之内為納ヒ尤至而輕き身

上ニ而過料」難差出者ハ手鎖

右之通ニ而重キ過料之分者 公義ニ而一定之御法不被

差」立其者身代ニ應シ其時々御沙汰相究ヒ儀と奉存ヒ

たとへハ」

御定書

一 廻船荷物出賣出買致ヒ者

賣主買主共 重過料

右之類買主相應之身上柄ニ得ハ過料三十兩買主其次之

身上ニ」得ハ過料二十兩差出させヒ儀と奉存ヒ然処分

限之貧富村高之」高下之儀ハ色々御座ヒ而宛ト之差等難

相定儀ニ付時々寄扱方」ニ而見切違ハ有之同罪之内ニ而

も過料之出方多少御座ヒ儀も難斗」奉存ヒ隨而寛政之御

例并文化元年四奉行沙汰之上被仰付分共「科之輕重ニ寄夫ニ過料相定身上之貧富ホニ而時ニ動儀モ」無御座間本文之通ニ而可然奉存ハ」

○老人幼少者并片輪者御刑法捌之事

寛政之御例

(三三)
(二ウ)

一 歳七七十以上十五歳以下并片輪者之類死罪以下過料ニ而用捨可致事八十以上十歳以下死罪ヲ犯ハ者ハ上聞之上時宜御沙汰可被仰付事盜賊并人ニ疢付ハ者ハ過料を出させ可申事其餘之罪ハ御構無之九十以上七歳以下ハ死罪ニ而も」刑ヲ不可加事尤九十以上主殺親殺之儀ハ時宜御沙汰可被仰付事」

但罪ヲ犯ハ節いまゞ老人片輪ニ無之ハ共事頭れハ節老人ハ片輪ニハ得ハ老人片輪ヲ以沙汰可致事幼少之節罪ヲ犯シハ壯年ニ至事頭れハ節ハ幼少之例ヲ以沙汰可致事」

一 片輪者之事惣而人事ニはつれ人なみ渡世難相成者をいふ也馬鹿乱心之類茂片輪ニ而沙汰可致事

御定書ニ

一 子心ニ而無弁人を殺ハ者 十五歳迄親類江預置遠嶋

一 子心ニ而無弁火を付ハ者 右同 右同断
一 盗いハしハ者 大人之御仕置ハ一等輕可申付
一 拾五歳以下之無看者途中其外ニ而小盜致ハ者 非人手下」

右之通御座ハ然ハ子心ニ而無弁人ヲ殺ハ者并火を付ハ者ハ死罪ハ不相成ハニ付御定書ニ隨ヒ可申奉存ハ得共公義ニ而ハ幼少者之ハ刑斗ニ而老人罪科を犯ハ節之御司法相見得ハ不申ハ老人ハ幼少者之儀ハ何レも同様之義と奉存ハ間寛政之御例之通ニ而可ハ然奉存ハ」
(三オ)

御定書安永之御例斟酌

一 歳十一歳以上十四歳迄之者死罪ヲ犯ハ節十五歳迄親類江預置ハ歳十五ニ相成御仕置可被仰付事

○主殺親殺科人之忤親類江預置候内出家願申出候者事 (四)

御定書斟酌

一 主殺親殺之者之忤遠追放申付ハ者幼少故拾五歳迄親類江預置ハ所出家致度旨寺院ハ相類ハ者伺之上上出家可申付事但出家ニ成ハ迄住所定置他所江參ハ節ハ同差出ハ様勿論ハ御目見仕ハ類之寺院江ハ住居不仕セ若住職不仕ハ而不叶ハ訳もハ有之歟又者 上向江罷出ハ儀有之ハハ、

是又相同の様右之段」師弟共ニ證文可申付事

御用人点羽御沙汰之上被仰付の筈尤證文ニは及不申

由

○科人者頭取同類を可別事

(五)

寛政之御例

一 式人以上申合罪を犯の節者其趣意相企を頭取と致し事

其余之同類と致同類ハ頭取の御仕置一等軽く可申付事尤

本」文ニ同類不殘と有之分ハ頭取同類之差別無之事

○老人ニテ二罪有之者之事

(六)

寛政之御例

一 二罪以上共ニ頭連の節者重キ者一箇条を以罪を定し事若

一罪先ニ頭連既ニ刑を加は後外之罪頭連の節ハ輕キ者并

同等之科ハ不及御沙汰若跡ニ頭連の科重クは者沙汰直ニ

致シ」前罪之敲之數差引殘ル敲之數斗刑を加へし事

但死罪以上之罪跡を相頭連の節前罪を差引の儀本文同

様」之事其外人殺強盜火附之類過料難相成死罪ハ跡

より相頭由而も差引ニ不相互死刑を行ヒ可申事

○五軒組合江過料可申付箇条之事

(七)

寛政之御例

一 隠田畑 隠津出 盜竊 博奕之者 隠商賣

右箇条之内罪を犯の者組合之者本人之罪相當を以過料

直シ組合四軒の差出サセ候事

但組合四軒の不足之分ハ四軒之割合ヲ以不足分ハ用捨

致し事」

前々之御例斟酌

一 右五ヶ条相犯の節村役ハ戸ノ之代り過料六百文町役ハ日

數五日戸ノ可申付事

但村役町役其格別不吟味之節有之は者村役者戸ノ之積

を以過料増并町役ハ戸ノ増可申付事

○科人自身申出候節捌之事

(八)

寛政之御例

一 惣而惡事を致し者事いまゞ頭連不申以前自身申出ると於

ニ」其罪御赦免被仰付し事

但人ノ疵付或ハ物ニ寄不可償品并密通之類ハ不許事

寛政之御例

一 盜賊或ハ手段等ニ而人之財物を取其後あやまちを悔し而

自」身と本人江返の者を上江申出ると同前其科可許事

御定書

一 惣而僉議事有之時同類亦之加入等之内判る早速致白状依て謀計之者共於相頭ハ右早速致白状依者ハ本罪相當る

一 等輕ク可申付事

○悪黨者訴人之事

〔九〕

御定書

一 惡事有之者を召捕差出ハ歟又ハ訴出る時右訴出ル者ニも「惡事」有之由悪黨者ル申掛ル共猥ニ相糺シ申問敷ル若本〔四ウ〕人ノ重キ」惡事ヲ證拠ニ申ヨおルてニ双方可致僉議事

○親族者罪ヲ隠候而茂御容赦之事

〔一〇〕

寛政之御例

一 父母兄弟伯叔父姑夫婦之間有之相隠ル共御咎メ無之事猶又其事を泄シ逃去ラしむる共不可罪事家來主人之為ニ隠ルも是又同前之事其外妻之父母娘之贅夫之兄弟ハ相隠ル而平人御仕置ル三等輕ク可申付事

○親族名目之事

〔一一〕

寛政之御例

一 本文ニ祖父母と有之ハ高祖曾祖同様之事孫と有之ハ曾孫
玄ニ孫同様之事嫡孫承祖ニ父母と同様嫡母養母ニ實母と同様之事

○罪科之者ニ寄本罪ル幾等茂輕ク可申付捌之事

〔一二〕

寛政之御例

一 譬者罪を犯ル者頭取と同類と有之時其同類之者ハ本人ノ御仕置一等輕ク申付ル上其者外ニ輕ク可申付子細有之時〔五オ〕
ハ」又幾等も輕ク可申付事

○本罪ヨリ重キ御仕置之事

〔一三〕

寛政之御例斟酌

一 本罪江一等或ハ二等三等ト段々差等を加へル御仕置ハ戸ノ五日ノ三十ノ敲ル徒ニ年半迄一段毎ニ一等ト致シ加江可申事たとへハ本罪」戸ノ二十日之者一等加へル得ハ戸ノ三十日ニ等加へ得ハ五ノ敲ル幾」等加へル共右之可為心得事尤徒ニ年半三十ノ敲ル限ニ而不可入」死罪事若等を加へ死ニ入ル廻キ者ハ其ケ条ニ其ノ断有之」事

○本罪ヨリ輕キ御仕置之事

〔一四〕

寛政之御例斟酌

- 一 本罪ヨリ差等ヲ減_レ御仕置ハ六等之死罪ヲ一等と致シ三等之「徒罪ヲ一等_ト致シ三十敲之上十里追放以下ハ一段毎ニ一等_ト致シ」減可申事たとへハ本罪死罪之者一等減_レ得ハ徒_ニ年半三十敲「二等減_レ得ハ三十敲之上十里追放三等減_レ得ハ二十七敲七里追放幾」等減_レ共右之心得たる遍き事」

○女罪を犯候節捌之事

寛政之御例斟酌

- 一 女所拂又ハ追放之罪科を犯_レ節ハ男子之通敲申付所拂追放ハ御用捨之事尤其科ニ寄其所ニ難差置者ハ所拂ニ茂可申付事

(一五)
(五ウ)

- 一 若又徒罪ヲ犯_レ節ハ男子之通敲之上徒罪之代り徒之年限_ヲ以牢舎可致事其余之罪科ハ男子同様之事

- 一 女之敲ハ襦袢之上_ニ打可申事尤密通ハ襦袢を去り打可申事盜賊之類ハ入墨を許可申事

○不義之財物取捌之事

寛政之御例

(一六)

- 一 財物之上ニテ罪ヲ犯_レ者本人相手共ニ罪有之時ハ其財物

者没収可致事若相手方罪有之本人罪無之時ハ其財物ハ本人江可返事

但没収可致財物并本人江可返財物既ニ費シ用_レ者可令出「償事若科人身死_レ而品物遺捨_レ節ハ取立ニ不及事

○同類之内出奔有之片口ニ相成_レ者之事

寛政之御例

(一七)

- 一 同類之内老_レ人ハ出奔致シ一人召捕_レ節其者出奔致シ_レ者

を「本人之旨申出別ニ證人無之時ハ其者ハ同類とい_レし」
(六オ)

刑を可「加事其後致出奔_レ者を召捕_レ糺明致シ_レ節最初之者本」人ニ相違無_レ之_レ者則頭取と致残_ル刑を加_レ可申事

但石林之者有之時致出奔_レ者を頭取と定_レ時頭取死

罪以上之罪科ニ相當_レ分ハ同類之者江刑を不加本人召捕_レ「迄入牢為致置可申事尤死罪以下ニ相當_レ分ハ本文之通」刑を加_レ可申事

○闕所之事

寛政之御例斟酌

(一八)

- 一 欠所之事三十敲以上専利欲之拘_レ科ハ其利欲之輕重ニ寄

田畑或家屋敷家財ハ欠所可申付事重罪ニ而も利欲ニ不
拘ものハ主殺親殺一家三人以上人を殺む者之外欠所不可
致」事

○御定書ニ

磔 火罪 獄門 死罪 遠嶋 重追放

右御仕置申付ゆ者ハ田畑家屋敷家財共欠所ニ可申付中追
放田畑」家屋敷輕追放ハ田畑斗欠所可申付家財ハ中輕共
不及欠所吟」味之内致病死ゆ共吟味詰御仕置可申付もの
ニ決置ゆ上致」病ゆ者伺ニ可成筋之御仕置之者伺之上欠
所可申付事」

但下手人ハ不及欠所比外專利欲ニ拘ゆ類ハ江戸十里四(六ハツ)

方」追放并所拂よても田畑屋敷欠所可申付食たる儀無

之」よおゐてハ不及欠所

右之通御座ゆ得共欠所之儀ハ寛政之御例之通ニ而可然

奉存ゆ

御定書

- 一 百姓田畑家財共欠所ニ相成ゆ蒞田畑質地ニ取置ゆ旨申出
ゆ者」證文吟味之上村役聞届之印形相違無之於テハ質入
之田畑」拂代金之内を以質ニ取ゆ者江元金可相渡金高不

足ニゆ者地」面ニ而可相渡若又年貢滞有之ハ右質入之地
面拂代金を以先ツ」年貢引取質取主江ハ殘金之内を以元
金可相渡尤金高不足」之分ハ銀主可為損失事

追加

但年貢滞ニ不限上之諸拜借ハ多有之百姓田畑欠所ニ相
成ゆ蒞」質ニ取置ゆ旨銀主之申出ゆ而も上之之諸拜借
上納分ニ引足不」申分ハ銀主之損失たる遍き事

御定書斟酌

- 一 御仕置ニ成ゆ者欠所之蒞當人貸置ゆ金子并賣掛金子手形
帳面ハ有之ゆ共借主之不及上納事

但借主右金子之儀ニ付不埒之儀も有之ゆ者取上可致上

納事

(七オ)

七

御定書斟酌

- 一 町在共ニ家屋敷家質ニ入ゆ者御仕置ニなり右家屋敷欠所
之蒞」金子受取度旨願出ゆ者證文吟味之上村役町役未印
相違無」之ニおゐてハ質地田畑同前可申付事

追加

但上之諸拜借有之取上之家屋鋪上納分ニ引足不申分ハ
銀主損失たる遍き事若殘金有之節ハ銀主江可相渡事

○身軀限申付方之事

御定書斟酌

一 田畑家藏屋鋪家財 取上

但他所ニ家藏有之分も取上尤銀主立合吟味之上金高不足」
得ハ追而身上成立次第可相掛旨申付金高る餘分於有之ハ」
滞金ニ應シ相渡セ可申立増米滞身軀限申付ハ
前田畑屋」鋪ハ銀主江渡置ハ上年々作徳ヲ以滞金相濟ニ於テハ地所」者地主江為相返ハ事

〔一九〕

御定書斟酌

一 借家者ニハ者 家財取上

但地借ニテ家作自分ニ致ハ者家并家財共取上可申事
〔七ツ〕

○取押物之事

寛政之御例

一 物而御制禁を犯ハ物ヲ取押ハ節其懸リ合役筋之者ニ無之
ハ者」其品取押ハ者江被下ハ事其役筋ニ而取押ハ者押物
多少ニ寄」御賞被下其品ハ没収可致事

但御賞被下方之儀ハ寛政十二申年十月被仰付之趣を以
取」扱可申事

〔二〇〕

○誤證文押而取申間敷事

御定書

一 相手得心不致ニ押而誤證文取申間敷ハ縦誤證文差出ハと
も」其證文ニカ、者ラ須理非次第裁許可申付事

〔二一〕

○旧惡御仕置之事

御定書

一 逆罪之者 一 邪曲ニ而人ヲ殺ハ者
一 火附 一 致徒黨人家へ押込ハ者
一 隠津出盜袖之者 一 追剝并人家へ忍入盜人
一 都而御法度ヲ背死罪以上之科ニ可被行もの
但役儀ニ付私欲押領致シハ者ハ輕クハ共相應之咎メ可
有之事」

〔二二〕

八

一 惡事有之永尋申付置ハ者

〔八オ〕

右ハ旧惡ニハ共御仕置相伺可申ハ比外之科一旦惡事致ハ
とも」其後相止ハ由申出外之沙汰も於無之ハ十二ヶ月以
上之旧惡ハ不及」咎事

但十二ヶ月内ハ吟味取懸十二ヶ月以後吟味相濟ハ共旧
惡」之」不相立事

料 ○村方戸ノ無之事

(二三)

御定書斟酌

一 村方戸ノハ不申付怪我ハ叱リ又ハ過料

但弘前町續并九浦町續ハ戸ノ可申付然共其事ニ寄過料
「」る遍し村方ニ而も郷士手代之類又ハ大場重立之者
ハ戸ノニも可申」付事猶又村役之儀ハ其品ニ寄戸ノ可
申付事」

資

○拾ひ物取斗之事

(二四)

御定書

一 拾ひ物之儀訴出ぬ者三日晒主出ぬ者金子ハ落主ト拾ひぬ
者江半分ツ、」為取可申ぬ反物之類ニぬ者不残主江相返
シ拾ひぬ者江ハ落ぬ者」相應之礼為仕可申事

御定書

一 落ぬ者之主相知れ不申ぬ者六ヶ月見合弥主無之ぬ者拾ひ
ぬ者江」不残為取可申事 (八九)

○科人出奔之即尋之事

(二五)

御定書

主人ヲ家来ニ

親ヲ子ニ

兄ヲ弟ニ

伯父ヲ甥ニ 師匠ヲ弟子ニ

右之類者尋申付間敷事

御定書斟酌

一 事を巧人ヲ殺ぬ者又ハ害打ニ或ハ人家へ忍入人を殺出奔
致シ」ぬもの有之時々其町其村ノ早速人数差出十日之内
御郡中」尋方可申付事

○拷問可申付者之事

(二六)

御定書斟酌

人殺 火附 盜賊 謀書謀判

右之分惡事致ぬ證拠慥ニぬ得共不致白状者并同類之内
白状致ぬ得共當人不致白状者之事
一 僉議之内不決外ニ惡事分明ニ相知連其科ニ而死罪可被
行者之事

九 右之外拷問申付可然品も有之ぬ者評議之上可申付事 (九オ)

○人相書を以御郡内御尋ニ可成者之事

(二七)

御定書并前々之御例斟酌

一 上江對シ重キ謀斗

追加

一 上之御道具ニ盜取ル者

右同

一 人殺 但人殺ニ紛敷出奔者

右同

一 御僉議中出奔之者

右同

一 牢破

右同

一 人を勾引ル者

右同

一 馬盜人

○重科人死骸塩詰之事

御定書安永寛政之御例對配(舊)

一 上江對シ重キ謀斗(斗)

一 主殺

一 親殺

右之分死骸塩詰之上御仕置申付(申)以外ハ不及塩詰(九ウ)ル事

○輕キ惡事有之者出牢(申)之上咎ニ不及事

御定書

一 過料戸ノホ可申付輕キ惡事有之者吟味之内六十日以上

(二八)

(二九)

入牢申付置ル者之分ハ出牢之節右咎可申付ル得其日數

入牢致ルニ付令有免之旨申渡別ニ不及咎メ同列之内

不致入牢科人ハ相當之咎可申付事

但所拂役儀取上ル類ハ何ヶ月入牢ル共其有免之沙汰有之

間敷事

御定書斟酌

一 五敲以下御仕置ニ可成者吟味之内拷問申付其者御片付

之節外ニ證據有之五敲以下之罪科ニ相違無之ル者追而

咎メ之沙汰不及事

○名目重相聞得候共於シ實強テ人之害ニ不成者罪科輕重格別事

御定書

(三〇)

一 似セ藥種致商賣候者死重其外之似セ物命ニカゝらざる

儀(註)各咎輕キ事

一 升秤私ニ造リル共輕重大小本様ニ無相違ハ他ノ損失無之

故(註)其咎輕キ事

一 惣而制禁を犯ル物有之時證據を以為可訴謀書を認(一〇オ)ハ

人之作リ名ニ判を押ル類ハ欲心を以人を欺ルトモ格別之

事(註)右之類名目ニ不泥其趣意を糺可致評議事

(三一)

料

資

○吟味事之内外之惡事相聞得_レ共旧惡御定之外ハ不及相糺事

一 惣而吟味之内外ニ茂惡事有之趣相聞得_レ共旧惡不_レ被免品之者格別其余之惡事ハ不及相糺取前_ル取懸_ル吟味を

詰物應_ル之御仕置可申付事

○年月定之事

一 凡而ヶ条之内ニ何十日と有之ハ其日之刻限_ル相濟_ル日之刻限」までを以上日限相定可申事尤戸ノハ右刻限之不及

差引事」

一 ヶ条之内ニ一年と有之ハ十二月ヲ以一年ト相定_ル事

〔七行空白〕

〔一〇ウ〕

○御刑法捌

○隱田畑御仕置之事

寛政之御例斟酌

一 隱田畑所持之者

隱田畑御取上ヶ一年分之年貢代錢ニ差」積御藏之財物を盜_ルヶ条ニ準刑ヲ加へ可申事」

但作徳米於所持一年之年貢為差出可申事

寛政之御例

一 御検見之節惡地

一 反歩_ル五反歩迄五敲五反歩毎ニ一 等宛重ク」可申付事尤高多く共十五

なと振替見セ_ル者 敲ニ而許可申事」

寛政之御例

一 隱田畑所持之者於

乍存見通ニ致置_ル得ハ本人同罪若不_レ有之節并御検見 存_ルハ」五反歩以下ハ許之五反歩之節惡地_ニ振替見 以上右之格ニテ三」等輕ク可申付事

セ」_ル者有之節村 尤反町多_ル共敲ニ而許」可申事

役之者」

○田畑質入年賦引當小作取捌之事

御定書斟酌

質地并年賦田畑年

一 限中ニ定ノ米錢返

濟無之」_ルハ、田

畑可相渡之證文」

十一 御定書斟酌

一 年賦引當田畑一旦沙汰之上銀主_ヲ借用之米錢日限ヲ以濟方申付_ル後不相濟_ルハ、地面銀主江可為相渡事

右同

一 又年賦又引當田畑元地主

加判有之證文

元地主江返濟方可申付事

〔三四〕

〔一一オ〕

但又年賦又引當之節借増之分ハ又年賦引當致_レ者ニ返濟方」可申付事

右同

一 寺社知行地并御除

地」屋敷_ホ讓渡或

質」入_レ寺社

寺院ハ退院社家者持宮御取押込讓受

質ニ取_レもの地面為相返過料三貫文

但知行地寺社直持之分ハ讓渡年賦引當_ホハ御藏地定法之通」可申付事

右同

一 小作證文無之共年賦證文ニ 年賦米錢立増米ともニ返濟

小作人之儀書加有之_レハ、 可申付

右同

一 田畑立増米滞_レ者

御定日限之通申付其上相滞_レハ、身代限」可申付事

但家守小作米錢共滞_レ者當人請人共濟方申付其上相滞_レハ、兩人共身代限可申付事

右同

一 年賦田畑之年貢

斗銀主_ル差出諸役

ハ」地主_ル相動_レ 貫文」

年季之内ニ_レハ、定法之通證文仕直

させ年賦置」主叱り年賦取主過料三

貫文」

證文」

加判人并村役迄過料壹貫二百文宛

但年季明キ_レ共六ヶ月之内ニ_レハ、地面可為請戻年季

明キ」六ヶ月過_レ出入ニ_レハ、銀主江地面為相渡本文

之通叱り可申」付事尤年貢諸役共ニ銀主ニ而相動_レ様

證文為仕直可申事」

追加

一 永代渡之田畑ニも前条之通之證文有之分ハ右同断仕直

可申付事

御定書斟酌

一 年賦引當ニ取置_レ地面を半分直作致年賦

地之高不殘年貢諸役共ニ元地主_ル相動_レ證文

但前条同断

前条同断

右同

一 質地田畑年季中之

米錢借高之内返濟

致」年季明キ殘米

錢有」之旨於及出

入者」

内返濟之米錢年割ニ致一ヶ年返濟致_レ者ハ」一ヶ年延右之格ニ而年延ニ為致年延年限」中受戻_レ様申付其上返濟滞_レハ、内」返濟之米錢地主江相返セ地面ハ銀主江」可相渡事

(二二七)

十二

四奉行点羽

此ヶ条年季明六ヶ月之内有之_レハ、受戻_レ様可申付事

六「ヶ月過い出入ニ有之ハ、内返濟之米錢地主江為相返流地」右之通被仰付ハ様右之外ハ證文表ヲ以時宜

御沙汰被仰付ハ様」

上点羽

被仰付比ヶ条本文之通

御定書斟酌

一 年賦田畑元地主ニテ小作致立増米滯儀銀主方申出ハ、立増米滯ハ斗返濟方申付日限之通不相濟ハ、地面ヲ取上銀主江相渡外小作人申付儀ハ銀主勝手次第元年賦年限中ハ流地ハ之不及沙汰年賦返濟所ニ而元地主江地面可相返事

寛政之御例斟酌

一 年季ヲ以質入年賦引當ホニ致ハ 五敲

田畑年季相濟元地主方元利返濟 年来之立増米為相

請戻ヲ求ハといへとも外事ニ託 返可申事尤地面（註）

シ不」相返年来押領致ハ者 元錢ヲ以受返可申事

追加

一 田畑質地并年賦引當之出入并小作滯之儀及出訴といへとも」田畑一抱之外分地之出入ハ取上申間敷事

点羽比ヶ条分地御制禁御觸出之後本文之通被仰付ハ様

右同

一 田畑家屋敷質地ニ致置ハもの上ヲ諸拝借有之上納相滯田畑家」屋敷上江御取上被仰付銀主江分散物無之借方不埒之者盜」賊ニ準三等ヲ減刑ヲ加ヘ可申事尤高多共三十敲十里追放」よて許可申事

〔三五〕

○田畑質地年賦引當ホニテ借用之采金錢滯濟方日限定

御定書斟酌

一 錢五百目以下 三十日限 錢五百目以上 六十日限

一 采二十五俵以下 錢壹貫目以上 百日限 錢五貫目以上 閏月共

一 采五十俵以上 錢拾貫目以上 閏月トモ 采二百五十俵以上 十ヶ月限

一 采五百俵以上 十三ヶ月限

右日限ニ準返濟申付ハ上滯ハ、地面取上銀主江可為相

渡尤其」人ミ身上ニ應シ取捌可申事

十三

○田畑押領御仕置之事

〔三六〕

寛政之御例

〔三六〕

屋敷ハ壹軒田畑ハ壹反歩五反歩迄

一人之田畑ヲ事ニ

五畝屋敷ハ「壹軒田畑ハ五反歩毎ニ

寄押領致ル者

一 等ヲ加ヘ可申事尤反町多」トイヘ

とも十八畝ニテ用捨可致事」

但年来ノ小作米可令返事

○田畑屋敷共坪違讓渡ル者御仕置之事

〔三七〕

追加

證文之通地面相糺請取人江相渡ル上

一 田畑屋敷共坪

渡人所持之田畑」取上十八畝所拂村

違讓渡ル者

役ハ役儀取放過料壹貫八百文加」判

之者過料壹貫五百文」

但當人壹人之手段ニ而村役加判人存不といふとも不吟

味之故ヲ以「過料六百文ツ、

○双方申合勝手ニ寄田畑取替所持之者御仕置之事

〔三八〕

追加

一 双方申合勝手ニ寄田畑

御本帳之通請取渡之證文ニ仕

取替所持致居ル者

直セ双方」とも叱り

○銘々持抱田畑潰地ニ致候者御仕置之事

〔三九〕

追加

本人五畝村役過料九百文本ノ

如ク仕置可申付事」尤無止事

子細有之分ハ其節願出ニ寄時

宜」御沙汰之事

〔三〇〕

一 銘々持抱田畑ノ内申立

無之勝手ニ寄塚并

御道ニ致置ル者

但其身一人之堰街道ニ無之數人申合之上抱合之堰并作
場道ホニ」致置ル者過料三貫六百文其外本文之通

○青田ヲ賣渡候者御仕置之事

〔四〇〕

追加

一 青田ヲ仕付之

賣渡ル錢高半分ツ、双方過料村役過

俟ニテ賣渡ル者 料一貫」二百文本のことく買戻可申付

事」

○老抱之田畑分地致讓渡ル者御仕置之事

〔四一〕

追加

一 老抱之田畑分地

賣人買人共十五畝 村役過料壹貫八

致シ他江讓渡ル者 百文」地面ハ買戻セ可申事

但壹抱之田畑分知之儀古來御制禁ニ御座得共いつ
 となく「相緩ミ村役聞届之上勝手次第讓渡ニ相成罷有
 由ニ付御再」檢同様地面御改後ニ無御座得ハ逆も難
 相改奉存由間夫迄之内「御咎御有免被仰付、様重而地
 面御改之後分地仕由者本文之」^(一四ウ)之通被仰付、様 氏但
 書ハ追テ地面御改相済由ハ、御除被仰付、様」

○采金錢貸借捌之事

(四二)

- 十四 一 采金錢貸借前々御触出之趣并享和三癸亥年十一月文化二
 丑「年十月御触直之趣ヲ以取捌可申事」^(一四オ)

御定書斟酌

- 一 借采金錢 一 祠堂金
 - 一 官金 一 書入金
 - 一 立替金 一 先納金
 - 一 職人手間賃錢 一 手附金
 - 一 諸道具預證文ニ而金子借由様 一 諸道具諸物賣渡證文
 二而金子借由類」
- 右之分願申出由節ハ借人僉議之上濟方日限定尤之通^(五)
- 一 錢五貫目以下三十日限 一 錢五貫目以上六十日限
 - 一 同拾貫目以上百日限

右之通濟方申付日延出願申出ニ於テハ時宜ニ應シ日延申
 付其上」濟方不埒由ハ、身代限輩可申付事

但濟方申付由而も不埒之輩有之由者急度咎メ可申付事
 且又不埒之貸方之願ハ遂吟味品ニ寄貸主も可相咎事

御定書

- 一 連判之證文有之諸道具徳用割合
 請取由もの 仲ケ間事ニ付無取上

右同

- 一 無尽金錢 證文有之由とも仲間事ニ相決由ニ付取上ケ申
 間敷事」^(一四ウ)

御定書

- 一 日寄附込帳ニ記由借金印形無之 無取上
 - 右同
 - 一 宛所無之又ハ年号無之證文 無取上
 - 右同
 - 一 證文之未利足定書載有之其所ニ印形無之利足 無取上
 - 右同
 - 一 家質金質地金并諸借金宛所違之證文ヲ以於訴
 出者」 無取上
- 但證文讓受由申由共證拠無之者取上申間敷事

御定書斟酌

- 一 凡而家賃并諸借金出入訴出ぬ節二歩以上之利足ニルハ、
- 二歩ニ直シ」濟方可申付事

○借金銀分散申付方之事

〔四三〕

御定書

- 一 金銀借り方之者身代分散之節貸方之内少ミ不得心之者
有之由願出ぬハ、分散請ぬ様申付若不得心ニルハ、得心
之者斗江」分散割合為相渡可申ぬ借り方之者身上持次第
割合請ぬ者」茂不請者と一同ニ追而相掛ぬ様可申渡事
〔一五オ〕

十五

御定書

- 一 家質金 何ヶ年以前ニ而も金高ニ應シ日限濟方
可申付、事」
但日限之上於滞ハ家質可為相渡日限之内之宿賃も濟
方可申付ぬ尤年季之内ニ而も宿賃滞三ヶ月過訴出ぬ者
取」上可申事

○家質金錢滞日限定之事

〔四四〕

御定書斟酌

- 一 錢壹貫目以下 三十日限 一 錢壹貫目以上 四十日限

- 一 同三貫目以上 六十日限 一 同五貫目以上 八十日限
- 一 同拾貫目以上 一百五十日限
但拾五貫目以上ハ見合日限可申付事

右同

- 一 寺附之品書入又ハ賣渡證 借り主退院證人寺院ニルハ、

文ヲ以」金子於貸借ぬ者 禁足俗人ニルハ、戸

但銀主者不埒之貸方ニル間濟方不及沙汰

御定書

- 一 槌成以質物借ぬ金錢 家質ニ準金高ニ應シ濟方日限可申
付事

追加

但日限之上於滞者質物流シ可申付事

〔一五ウ〕

御定書斟酌

- 一 為替金不相渡不埒之訳 自分預り之物私曲之ヶ条を以
銀主方於申出者 刑を」加へ可申事
- 一 家質并諸借金有之者 上る諸拝借有之上納相立不申家藏
屋敷 上江御取上ヶ被仰付外銀主江分散物無之借方不埒
之」者盜賊ニ準三等ヲ減刑を加へ可申事尤三十敲十里追
放迄」よて許可申事

料 ○二重質二重書入二重賣御仕置之事

〔四五〕

御定書斟酌

資

一 田畑屋敷二重ニ 質入主 二十四敲五里追放
質入致シル者 名主村役 十八敲所拂
加判人 所拂

但二重書入モ同断田畑屋敷建家ホハ初之銀主江相渡後
ニ銀主江ハ家財取上可相渡尤名主村役加判人馴合礼
金取ルハ、廿四敲五里追放後ニ銀主存質地書入ホ
證文取ルニ於テハ「三里追放

右同

一 諸商賣物代金請取其品不渡

錢ハ老實目ル以上雜物

外江二重賣致シ又ハ取次可遣品

者代錢ニ積

質置并賣拂或ハ金錢致横取ル者

老實目以上

十六

死罪

但先入牢申付代金又ハ高賣物ニ而なりとも於相濟者老

實以上ハ三里追放老實目以下ホ所拂

右買取ル者若不念之仕方於有之ハ其品取上可申事

○偽之證文を以采金錢貸借致候者御仕置之事

〔四六〕

御定書

一 金錢借用之證文及露頭ル而ハ難立筋又ハ支配頭或ハ
申訳難立者ニ名ヲ偽文言之内江書入金錢借ル者 死罪
但右之趣存質ル者死罪

○御收納遲滞ル者御仕置之事

〔四七〕

寛政之御例斟酌

一 御收納ハ年々十一月晦日迄 御收納高十分ニ割一分滞ル
皆済可致」若翌正月迄無故 得ハ五敲」一分毎ニ一等ヲ
シテ皆済無之者」 加ヘ可申事尤十敲」ニテ許
可申事 村役戸ノ廿日」

○御用物内借御仕置之事

〔四八〕

寛政之御例

一 御藏廻之者御藏之 米錢之高を以盜賊ニ準罪ニ行ヒ可申
采錢ヲ内借致ル者 事」

事」

但御藏廻り之者ニ無之ハ、一等輕ク申付入墨許可申
点羽入墨之儀 公義江御伺被成ル得共不被仰付ル間右
ニ代リル刑法」沙汰之上追而可申上ル

〔四九〕

寛政之御例

一 器財之類自分之物ヲ以御藏内之物と取替ル者 右同断

○闕所ニ可成田畑家屋鋪ヲ隱置ル村役町役御仕置之事 [四九]

御定書斟酌

一 欠所ニ可成田畑家 村役名主役儀取放過料三貫文

屋敷ヲ於隱置者 五軒組合同断

但不存ニおるて是叱り

○人別帳よも不加他之者差置ル者御仕置之事 [五〇]

御定書斟酌

一 人別帳ニモ不加他ノ者差置ル者 差置ル者戸ノ廿日

名主村役叱り

○煩候旅人ヲ宿送致候者御仕置之事 [五一]

御定書斟酌

一 煩候旅人療治モ不加其上 旅籠屋所拂 村役町役

宿継送出ルニおて 役儀取上 [二七オ]

十七

○御印紙并御切手紙御印札紛失之者御仕置之事 [五二]

文化四卯年之御例

一 御印紙紛失致ル者并 過料銀壹枚上納之上五日戸ノ

御切手紙紛失致ル者 但墨付有之れも同断戸ノニ不及

前々之御例

一 御印札紛失致ル者 過料銀壹枚

但急変ホニテ紛失之節證據於分明ハ不及過料事

追加

一 旅人御印紙紛失之節 旅人之往来宿戸ノ五日

○御関所忍通候者御仕置之事 [五三]

寛政之御例斟酌

一 御関所を忍通ル者 十五敲

右同

一 山越致シル者 十八敲所拂

○右ヶ条御定書ニ関所難通類山越ホ致ル者磔同案内致ル者磔同忍通ルもの重追放ト御座ル右関所難通類山越

ホ致、者磔と御座ル儀其身罪科ホ有之歟又ハ御停止

物ホ持通りル而「御切手紙願難差出ニ付御関所山越致、者ニ可有御座ル得ハ嚴」科可被仰付儀と奉存ル乍然罪科無之御関所忍通ル歟又ハ山越「致ルものハ死罪ニ至

りゆ程之儀無御座ゆ様奉存ゆニ付前書」之通沙汰之上
相定申ゆ尤罪科有之者御関所并」山越ホ致ゆ者之儀ハ
公義御定ニならひ嚴科ニ沙汰仕末々」ケ条ニ差出申ゆ

○立帰者御仕置之事

〔五四〕

御定書安永寛政之御例斟酌

- 一 科有之追放被仰付ゆ後御構之 取初御仕置る一等重ク
地江立帰ゆ者 可申付事

御定書

- 一 入墨ヲ拔御構之地江立帰ゆ者 入墨ノ上前々御仕置る
一等重ク可申付事

御定書斟酌

但立帰之後徒刑ニ當ゆ悪事致ゆ者死罪

寛政之御例

- 一 悪事有之出奔致其後立帰忍居ゆ者 本罪ル一等重ク可
申付事
- 但本罪輕クゆ共山越致立帰ゆ者ハ斬罪御関所忍通り
ゆ者ハ三十敲十里追放

御用人点羽御関所仮令忍通ゆ共於立帰者ニハ死罪ノ筈
○右ケ条安永ニ重キ追放ト被仰付ゆもの御関所忍通り

又ハ脇道ホ致立帰ゆ者ハ獄門ト御座ゆ得共評議之上前

書」之通相定申ゆ

〔一八オ〕

御定書斟酌

- 一 右同立帰悪事致ゆ者 本罪ル二等重ク可申付事
但三十敲十里追放以上之悪事致ゆ者ハ死罪

○右ケ条御定書ニ一旦追放ニナリ御構之地江立帰あ者れ
ゆ者」死罪ト御座ゆ得共斟酌仕前書之通相定申ゆ

寛政之御例

- 一 悪事無之出奔之後立帰ゆ者 御関所外江出不申ゆ得ハ過
代」夫役七日

○隠津出隠荷上ケ致ゆ者御仕置之事

〔五五〕

○隠津出ハ刑御定書ニハ無御座ゆ安永ニハ品物取押過料

又ハ追」放と御座ゆ寛政ニハ品物取押鞭十五尤米二百
俵以上ハ家財」欠所と御座ゆ然ハ栄志俵出ゆ者も百俵
差出ゝ者も申立十五」敲ニ而ハ相當不仕ゆ様奉存ゆ殊
ニ御国表ニ而隨一之御メ合ト奉」奉存ゆ間无之通被仰
付」様」

寛政之御例斟酌

- 一 隠津出致ゆ者栄拾俵以上 品物取押十五敲
- 一 同拾俵以上 右同十八敲所拂
- 一 同五十俵以上 右同廿一敲三里追放

〔一八ウ〕

一 同百俵以上 右同廿四敲五里追放

一 同百五十俵以上 右同廿七敲七里追放

一 同二百俵以上 (右同三十敲十里追放家屋敷
家財欠所)

四奉行点羽左之通

隱津出之儀二百俵以上家屋敷家財欠所と御座得共其
仕振ニ「寄田畑家屋敷御取上家財欠所と不被仰付、而
ハ御ノ相立不」申ハ間敲數ニ不拘家屋敷田畑御取上家
財欠所ハ時宜御「沙汰被仰付」様

御用人点羽 四奉行点羽可然ハ

一 隱津出宿致ハ者 本人同罪

一 同五軒組合之者共 五軒組合四軒ハ過料六貫文

但百俵以上隱津出致ハ者五軒組合之者共過料十二貫文
尤村役過料之定凡例ニ有之

○右五軒組合之者過料之儀是迄十五敲之贖六貫文ツ、上
納被仰付罷有ハ得共本人前書之通御定被仰付ハ得ハ十
八敲」之贖十二貫文同二十一敲ハ十五貫文廿四敲ハ拾
八貫文廿七敲ハ」廿一貫文三十敲ハ二十四貫文御座ハ
右贖五軒組合ハ差出」サセハ而ハ過分之過料ニ付難儀
之者共上納難相成却而」御取扱ニ相成可申哉ニ奉存、

十九 儀前書両条相定申ハ」

寛政之御例斟酌

一 隱津出米取賦ハ者 過料壹貫八百文宛

追加 旅人ニハハ、隱積品御取上ケ入津御差留

一 隱津出相對 御領内之者ニハハ、本人ハ同様之御仕置

致ハ船頭 船取上可申事」

水主のもの過料一貫八百文ツ、

寛政之御例

一 旅船隱荷揚致ハ者 隱荷揚之品物取押入津御差留

寛政之御例斟酌

一 隱荷上ケ相對致ハ問屋 家業取放 十敲

○右ケ条寛政ニ相對ハ問屋鞭六ト御座ハ得共一等重ク相
定申ハ」

○安永之御例ニ御停止物隱津出致ハ者重キハ死罪輕キハ
鞭刑」追放隱荷上ケ右ニ準御沙汰之事と御座ハ得共前
書御定之」外死罪ハニ可被仰付程之隱津出隱荷上之儀
ハ時宜御沙汰」被仰付可然儀ト奉存ハ

○米留所無手形米忍通ハ者御仕置之事

〔五六〕

寛政之御例斟酌

- 一 米留所無手形米忍通_ル者 荷上ケ取押十敲

駄賃付之者過料老貫八百文

但自分馬ニ有之_ルハ、馬共取押可申事駄賃附之者被_レ雇
(一九ウ)
 由ニ相違無之_ルハ、馬ハ相返可申事

- 右ケ条寛政之御例_ル一 等重ク相定申_ル

○隱商賣致_ル者御仕置之事

寛政之御例

- 一 隱商賣致_ル者

品物取押過料

(五七)

御定書斟酌

- 一 賣人買人ヲ拵似セ物商_ル者

十五敲

○廻船荷物出賣出買并船荷物押領致_ル者御仕置之事 (五八)

御定書斟酌

- 一 船荷物出賣 賣買之品物代錢ニ差積過料

出買致_ル者 旅人ニ_ルハ、賣買之荷物代金取上ケ入津御

差留

但荷物代金共取上問屋附之荷物ニ有之_ルハ、荷物問屋

江可相渡事

御定書

- 一 打荷或ハ破船ト 船頭獄門 上乘同罪 水主入墨之上

偽荷物押領致_ル者

十五敲

但吟味之上浦證文ハ有之_ル共類船無之差而いたみ不申
 由_ル致荷打_ルニお_レてハ船頭過料拾貫文上乘同三貫

文水主無搦

(一〇ウ)

御定書斟酌

- 一 遭難風致打荷_ル残り荷物を盜取_ル船頭ト馴合

湊方相欺浦證文ホ取替配分ホ取_ル者

死罪

○右ケ条御定書獄門此次ノケ条ニ盜荷物預置_ル者死罪
 と御座_ル得共元來此ケ条ハ船頭殘荷物を為可致私賴合

由_ルより出_ル罪人ニ御座_ル得ハ船頭ハ本人ニ付重罪
 ニ御座_ル得とも 其余_ニ同類ニ御座_ル間死罪一 等許シ

可申者ニ御座_ル併湊方ヲ相欺_ル儀不_レ埒之者ニ付死罪
 ニ仕其外之同類_ニ一 等宛輕ク申付、方可然様奉存_ル

ニ付此度評議之上右之通 相定申_ル

御定書斟酌

- 一 盜賊荷物自分土藏江入預置配分取_ル者

徒老年半 三十敲

右同

一 同船頭之宿致馴合村中之者江申勸メ配合取ル者

三十敲 十里追放

右同

一 同百姓之内重立致持賦世話配分取ル者

式拾七敲 七里追放

右同

一 同盜荷物配分并ル百姓

十敲

○盜賊御仕置之事

御定書

一 都而盜物之品ハ被盜ル者江相返可申ル金錢遣捨ルハ、可

為損失」盜物取戻ル共科之無差別条(一)

寬政之御例

一 凡而盜賊之類不殘入墨可致事

御定書安永寬政之御例斟酌

一 盜ニ忍入人を殺ル者

當人 磔

但同類之内助力不致者ハ盜賊ヲ以沙汰可致事

御定書安永之御例斟酌

一 同疵付ル者

當人 獄門

御定書寬政之御例斟酌

但忍入ルニ無之ル共盜可致ト存人ニ疵付ル者ハ死罪同類之内」助力不致者ハ盜賊ヲ以沙汰可致事

○右本ケ条寬政ニ磔ト御座ル得共本文之通ニ而可然奉存ル」

御定書安永之御例

一 盜ニ入刃物ニ無之外之品ニ而人ニ疵付ル者 當人斬罪

寬政之御例

但同類之者助力不致ルハ、盜賊ヲ以沙汰可致事

寬政之御例

一 人家江忍入ル盜賊財物ヲ捨遁去ルヲ 科人手向之御仕置

其家内之者追懸ルニ付手向致ル者 ヲ以沙汰可致事

御定書寬政之御例斟酌

一 強盜可致ト徒黨 財物ヲ取ル得ハ同類不殘磔

徒致人家江押込ル者 財物ヲ取不申ル共同類不斬罪

御定書安永寬政之御例斟酌

一 土藏ヲ破 財物ヲ取ル得ハ不拘多少斬罪

盜致ル者 財物ヲ取不申ル得ハ徒壹年半三十敲

但同類ハ一等輕ク可申付事

御定書安永之御例斟酌

一 盜賊之手引致ゆ者

本人同罪

御定書斟酌

一 片輪者ヲ殺ゆ而所持之品ヲ盜取ゆ者

引廻之上 獄門

但盜取ゆ斗ニ而於不殺者三十敲十里追放高多ゆハ、盜

賊」之刑ルニ等重ク可申付事

御定書

一 追剝致ゆ者

同類共 獄門

○右ヶ条安永ニハ引廻之上獄門寛政ニハ磔と御座ゆ得共

本文之通」よて可然奉存ゆ

御定書

一 追落致ゆ者

斬罪

寛政之御例

一 白昼ニ人之物ヲ奪取ゆ者

三十敲 十里追放

但盜取ゆ高多キ節ハ盜賊之刑ルニ等重ク可申付事 尤

同類ハ一等輕ク可申付事

御定書斟酌

一 巧ヲ以人ヲ打擲致

人ノ疵付ゆ得ハ 獄門

同類之内ル取扱

不得物取ゆ共疵付レ得ハ 死罪

物を祿り取ゆ者

不得物取疵付不申ゆハ

徒一年半三十敲」

右同

但同類之者ハ一等輕ク可申付事

寛政之御例

一 喧嘩ホ致財物ヲ奪取ゆ者 三十敲 十里追放

但取ゆ高多クゆハ、盜賊之罪ルニ等重ク可申付事

同類之者ハ一等輕ク可申付事

寛政之御例

廿一 巾着切之類ハ常々盜賊ヲ以沙汰可致事

寛政之御例斟酌

一 盜致ゆ者盜取ゆ高ニ應シ輕重之罪科ニ可行事

○盜賊之刑御定書ニ重キ盜賊ニテ死罪ホニ相成ゆ分夫レ

之ヶ条ニ出ゆ外輕キ盜致ゆ者ハ敲と御座ゆ而何程之品

盜取ゆ者ハ敲ト申儀も相分不申ゆ得共御定書ニ手元有

之」品ヲ与風盜取ゆ類金子拾兩以上死罪ト御座ゆ得ハ

公儀ニ而も元來之処ハ錢高ニ寄刑を加へゆ儀ト奉存レ

随而」重キ盜賊ニ而死罪ホニ被行ゆヶ条之外輕キ盜賊

ハ盜取ゆ」錢高ヲ以刑ヲ加へゆ儀可然奉存ゆ尤御定書

ニ輕キ盜ニ而も」拾兩以上死罪ニ御座ゆ而寛政ニハ百

三十貫文以上斬罪ト御」座ゆ間御定書寛政之御例斟酌

仕百貫文以上斬罪ト相定申ル

寛政之御例斟酌

- 一 錢二貫五百文以下 同 一貫五百文以上 五敲
 - 一 同五貫文以上 同 七貫文以上 拾敲
 - 一 同十貫文以上 拾五敲
 - 一 同二十貫文以上 拾八敲所拂
 - 一 同三十貫文以上 二十一敲三里追放
 - 一 同四十貫文以上 二十四敲五里追放
 - 一 同五十貫文以上 二十七敲七里追放
 - 一 同六十貫文以上 三十敲拾里追放
 - 一 同七十貫文以上 徒半年三十敲
 - 一 同八十貫文以上 徒半年三十敲
 - 一 同九十貫文以上 徒壹年半三十敲
 - 一 同百貫文以上 斬罪
- 右錢高ヲ以罪ノ輕重ヲ定ル事尤盜取ル品幾人ニ而分ケル而も分前之高ニ不拘盜取ル本高ヲ以罪ヲ加ヘル事同類之者ハ一等輕ク可申付事
- 但僉議之節數家ニおゐて盜取ル儀相頭といへとも唯一家之盜高多キヲ以罪ヲ定ル事米穀ホキ時之直段ヲ以錢ノ直シ品物ハ直打致セ錢ノ差積可申事尤一夜ニ

五軒以上江盜ニ入錢高五十貫文以上之品物盜取ル者ハ斬罪

寛政之御例

- 一 盜ニ忍入ル而も品物盜取不申者ハ 五敲 入墨許之
 - 安永之御例斟酌 等
 - 但武士屋敷江忍入ルハ、二重ク可申付事
- 自分預之物私曲致ル者御仕置之事
- 一 御預之物を私曲致シ盜取ル者頭取同類之差別之盜取ル錢高を以罪ヲ定ル事尤幾人ニ而分ル而も分前之高ニ不拘盜取ル本高を以一人毎ニ罪ヲ加ル事
- 定
- 一 錢二貫五百文以下 入墨之上 拾敲
 - 一 同 一貫五百文以上 拾敲
 - 一 同五貫文以上 拾五敲
 - 一 同七貫五百文以上 拾八敲所拂
 - 一 同十貫文以上 廿一敲三里追放
 - 一 同十二貫五百文以上 廿四敲五里追放
 - 一 同十五貫文以上 廿七敲七里追放

料

資

一 同十七貫五百文以上 三十敲十里追放

一 同二十貫文以上 徒半年三十敲

一 同二十五貫文以上 同壹年三十敲

一 同三十貫文以上 同壹年半三十敲

一 同四十貫文以上 死罪之代り徒二年三十敲
(二三四)

追加

但四十貫文以上其趣意重キハ時宜御沙汰之上死罪
ニも入可

申事

○御藏之財物を盜取ル者御仕置之事

(六一)

安永之御例

一 御藏を破盜致ル者 同類共獄門

寛政之御例

一 御藏之財物を盜取ル者并御藏廻之者共御藏之財物ヲ

私曲致ルもの頭取同類之差別無之盜取ル錢高を以定

ル事尤幾人ニ而分ケル而も分前之高ニ不拘盜取ル本高ヲ

以老人毎ニ罪を加ル事

御用人点羽

上之物を預と御藏之物を預ト同様相聞得申ル間御仕置

も」同様被仰付、様奉存ル

定

一 錢五貫文以下 入墨之上五敲^五

一 同五貫文以上 十敲^五

一 錢十貫文以上 十敲^五

一 同十五貫文以上 十五敲

一 同二十貫文以上 十八敲

一 同二十五貫文以上 二十一敲三里追放

一 同三十貫文以上 二十四敲五里追放

一 同三十五貫文以上 二十七敲七里追放

一 同四十貫文以上 三十敲十里追放

一 同四十五貫文以上 徒半年三十敲

一 五十貫文以上 同一年三十敲

一 五十五貫文以上 同一年半三十敲

一 八十貫文以上 斬罪

寛政之御例斟酌

但御藏廻之者私曲致ル分ハ死罪之代り徒二年三十敲尤

其趣意重キハ斬罪

○難船等之節乱妨致ル者御仕置之事

(六二)

寛政之御例

一 難船ホ之節便ニ乗シ乱妨致ル者 三十敲十里追放

但取ル物高多ハ、盜賊之罪ハ二等重ク可申付事同類

之者ハ本人ハ一等輕ク可申付事

○度々盜致ル者御仕置之事

〔六三〕

寛政之御例

一 盜賊入墨二度ニ及ヒ又々盜致ル者

斬罪

○御定書家藏江忍入旧惡ニハ共五ケ度以上之度数盜致ル

者」物不取得ル共引廻之上死罪家内江忍入或ハ土藏杯

破リ」ハ類金高雜物不依多少死罪と申ケ条も御座ル然

ハ」五ケ度ニ限ル儀ニも無御座ル間寛政之御例ニ随ヒ

常之」盜賊ニ而も三度ニ及ル得ハ死罪と相定申ル」

○盜人ヲ搦捕不訴出者御仕置之事

〔六四〕

御定書

村役名主并當

一 盜人ヲ召捕雜物取返内證ニ而逃シ遣ル者

人共」支配頭

ニ而 叱リ」

但死罪ニ可相成盜人ヲ内證ニ而逃シ遣ルハ、村役名主

當人とも」過料尅貫文

○盜賊之宿致ル者御仕置之事

〔六五〕

寛政之御例

一 追剝強盜之宿致ル者

本人同罪

廿五

寛政之御例

一 盜賊之宿致ル者

本人同罪

但財物ヲ配分不致ル得ハ一等輕ク可申付事

○右両ケ条御定書ニ惡黨者乍存宿致盜物賣拂遣又ハ

質ニ遣配分取ル者死罪惡黨者と乍存宿致又ハ五七日ツ、

滞留為致ル者重追放但惡黨者磔ニ被行ルハ、宿致

ル者死罪と御座ル安永ニハ盜賊と乍存宿致盜物ハ取扱

ル者鞭刑追放巧ニ重キハ斬罪ト御座ル然ハ御定書ニ惡

黨者之宿ト斗御座ル而輕キ盜賊之宿致ル者御片付

之儀相分り不申御片付方區ニ相成可申奉存ルニ付寛政

之」御沙汰本人同罪ニ而可然奉存ル

○盜物質ニ取ル者并預ル者又ハ賣買致ル者御仕置之事〔六六〕

寛政之御例

一 強盜并凡而盜賊之盜物ヲ乍存買ひ者品物錢ニ差積盜賦（一五ウ）之刑ルニ等輕ク可申事乍存預置ひ者又一等輕ク可申付事但品物之高多ハ共十五敲ニ而許し可申事若不存ハ得ハ御「構無之品物ハ本人江返可申事」

○右ヶ条御定書ニ盜物ト乍存世話致配分ハ不取者敲○盜物ト「乍存（一五ウ）ひ者敲○陰シ物買入墨ノ上敲○陰物ト乍存又買」致ひ者入墨之上敲但年來此事ニかゝり居ひ者死罪○「盜物と乍存下直ニ買取ひ者所拂ト御座ハ安永ニ盜物相調」ひ者輕重ニより戸ノ或ハ追放と御座ハ然処買取質ニ取」ハニ茂多少御座ハ間寛政之御例ニ随ヒ其品之多少ニ寄」刑ヲ加へハ方可然奉存ハ

御定書斟酌

一 盜物ト不存證人取之如通例質ニ取吟味之上盜物之儀不存訊ニ決ハハ、證人ニ元人（金）為償質物ハ取返被盜ハものへ相渡可申事」

但證人も御仕置ニ成り金子可差出方無ハハ、質屋可為損」金事尤證文取不申ハ得ハ質屋可為損金事

御定書

一 盜物ト不存品物買取ひ者其品取返シ被取ひ者江相返可申

事尤「證人ヲ取買ハハ、證文ニ代金買主方江可相渡事但被盜ハ品有所不相知代金盜人所持致ハハ、取上被盜ハ者江」可相渡ハ尤盜物買主ハ取返ハ上代金盜人所持致ハとも「買主無念ニハ間右金子没収可致事」

右同

一 盜物ト不存買取賣拂ハ節ハ賣先段々相糺代金を以買戻セ被盜ハ者江相返セ盜人ハ初發買取ハもの損金ニ可申付事（二六オ）但賣先不相知ハハ、初發買取ハもの被盜ハ者江代金（二六オ）

廿六

ニ而」為償可申事

御定書斟酌

一 紛失物町觸之節隱

置ハ者

品物錢ニ差積盜賊之刑より一等輕ク可申付ハ事

右ヶ条御定書ニ家財取上江戸拂と御座ハ得共是又品物ニ」多少御座ハ儀故其多少ニ随ヒ刑ヲ加ハ方可然ハ様奉存ハ」

○入墨ヲ扱取ハ者御仕置之事

寛政之御例

一 盜致入墨ニ被行ハ者其後ヒソカニ扱ハ者

御用人点羽入墨之儀ハ上之点羽ニ申上ハ

〔六七〕

但入墨仕直可申事

○右ヶ条御定書

入墨ヲ拔御搆之地江立帰ル者

入墨之上前々御仕置ル

一 等重ク可申付事

入墨ヲ拔ルて遣ル者

敲

入墨ニ成ル後又ハ致盗ル者

死罪

但外之悪事致シルハ、重キ敲

右之通御座ル得共 公義ニ而ハ重キ盗致ル者ニ無御座ル

得ハ入墨ニ」相成不申ル様ニ相聞得申ル寛政之御例(二六)ニ御

座ル得ハ盗賊鞭三」以上入墨ニ相成此度とても右御例ニ

随ヒ相定申ル間入墨」拔取ル者寛政之御例之通ニ而可然

奉存ル」

御定書斟酌

一 入墨拔遣ル者 過代夫役廿日

○金子遣捨ル飛脚御仕置之事

御定書斟酌

一 金子入之書狀請取途中

ニテ切解遣捨ル飛脚

金子高ノ不依多少 引廻之上 斬罪

〔六八〕

○火附御仕置之事

御定書安永寛政之御例

一 火を附ル者

引廻之上 火罪

但燃立不申ルハ、引廻之上 斬罪

御定書

一 人ノ被頼火を附ル者

火罪

右同

廿七 一 同頼ル者

火罪

御定書

一 火ヲ附ル者年ヲ越於頭者

死罪

但十二ヶ月越年ト相定ル事

右同

一 火附ヲ召捕又ハ訴人ニ出ル者

御褒美人數之不依多少銀三十枚」

文化元子年御定

一 遺恨ヲ以火ヲ附ルヘキ旨張札又ハ投文致ル者

三十敲徒二年」

○右ヶ条御定書ニ死罪と御座ル得共威シノ為テ通ノ仕方ニテ」火ヲ附ル真意ニ無御座ルニ付徒刑ニテ可然奉存

ル」

〔六九〕

料 ○牛馬盗人御仕置之事

〔七〇〕

安永寛政之御例斟酌

- 一 牛馬ヲ盗取他領江忍出_レ出_レ者并御領内ニテモ賣渡_レ者

資

〔斬罪〕

追加

但御領内ニテ未不賣渡者ハ鞭三十徒老年半

安永之御例斟酌

- 一 他領之悪者引入盗牛馬之手引致_レ者

〔斬罪〕

但於御領内馬取返_レ得_レ手引致_レ者ハ三十敲徒老年半

右同

- 一 盗牛馬乍存買取_レ者

徒老年半三十敲

〔二七ウ〕

但不存買取_レニ於無紛ハ御搦無之

右同

- 一 盗牛馬之儀賣先相知_レ分ハ本人江相返セ可申事

追加

- 一 一段ヲ以牛馬ヲ他領江隱賣致_レ者 二十四敲五里追放

右ヶ条享和年中右躰之者有之鞭刑二十一鞭被行三

里追放被仰付_レ類例も御座_レ間此度沙汰仕書加申_レ

○無礼之馬賣買并馬札紛失致_レ者御仕置之事

〔七一〕

寛政之御例

- 一 無礼之馬賣買致_レ者

五敲

右同

- 一 馬札紛失致_レ者

過料老貫文

○盗袖御仕置_レ之事

〔七二〕

○盗袖之儀安永ニ小屋懸_レ致泊_レ山御留山ニ而盗袖之者

之_{〔註〕} 〔斬罪馬附日婦盗袖脊負荷日婦_レ之盗袖ハ鞭刑

追放過料鞭刑_レ時宜御沙汰ト御座_レ寛政ニハ袖取之多

少ヲ以御藏之財物ヲ盗取_レ律ヲ以刑ヲ可加事ト御座_レ

廿八

然ハ」安永之御例ハ大略ニテ寛政之御例ハ明密ニ御座_レ

之_{〔註〕} 間寛」政之御例可然奉存_レ得共是迄盗袖有之當人相

知_レ分_レ分ハ」袖取之木品代錢ニ差積刑ヲ加_レ得共伐

木も色々ニ而伐株」斗御座_レ分も有之積方等敷相成不

中間此度伐株三」段々仕分右三段之平均ヲ以刑ヲ加_レ

得ハ弁理ニテ大躰積」方之輕重モ相當可仕奉存_レ儀

以來左之通被仰付_レ様」

御用人点羽 此ヶ条寛政之御例之通被仰付_レ

寛政之御例斟酌

- 一 盗袖致_レ者袖取之伐株小口ヲ以寸面ヲ取丈ハ二間と致三

段ニ相「定代錢ニ差積御藏之財物ヲ盜取ルケテヲ以刑ヲ加ヘ可申」事尤入墨ハ許可申事

但一村申合盜竊有之不殘刑難行節ハあかないハ差出セハ儀時宜御沙汰之事

四奉行点羽

盜竊之儀盜伐之分伐錢差積鞭三十里追放以上之刑ニ無御座ル而ハ田畑家屋敷家財欠所不被仰付ル得共其仕振ニ寄「欠所ハ不被仰付、而ハ御ノ相立不申ハ間鞭數ニ不拘家屋敷田畑」御取上家財欠所ハ時宜御沙汰被仰付ノ様

伐株三段之直段定左之通

一 杉檜伐口差渡二寸以上 式間丸太直段

(二八九)

一 同五寸以上 六寸角直段

一 同壹丈以上 六寸角一倍直段

右直段ヲ以相究可申事雜木ハ檜木ヲ三割下直段ヲ以積可申事尤木品有之分ハ不殘取上可申事

此ヶ条四奉行点羽左ニ

一 檜差渡式寸以下ハ 八尺小柵立直段

一 同差渡三寸四寸之二口ハ 二間垂木直段

一 同差渡五寸ヲ七寸迄之三口ハ 二間丸太直段

一 同直段差渡八寸九寸之二口ハ 二間五寸角直段
一 同直段差渡尺并尺一寸之二口ハ 二間六寸角直段
右以上ハ前書積ヲ以村割之筈

但杉ハ檜ヲ割下ケ雜木ハ家木ニ相成ル分三割下ケ

右之通被仰付ル様

一 村役五軒組合過料定凡例ニ有之

寛政之御例

一 御留山ニ而柴 過料壹貫文尤伐取之高大ハ節ハ錢差積薪伐取ル者 一倍之過料上納可申付事

右同

一 御留山ニ無之ハ而も 前書同段尤伐株斗ニ而木品無之節 御停止木伐荒ル者 ハ雜木之「伐株積ヲ以沙汰可致事

廿九

寛政之御例對酌

(二九七)

一 流木過木伐取ル者 過木取上ケ過料三貫文

但御極印打入以前過木賣拂ルニ於ハ右代錢上納之上御藏之財物を盜取ルケテを以過料差出セ可申事

○右ヶ条寛政ニ山師共流木過木伐取ル者伐出之過木不殘取上伐出能多少を以罪ヲ加ムと御座ル得共過木之儀山

師」差圖を以伐取_レ斗ニも有御座間敷柚子共銘々伐取惣高之処ニ至過木ニ相成_レ儀も可有御座在方ニ而も其村申立ニ寄流木伐取被仰付村方之者銘々伐取_レ惣高員數之処ニ而過木ニ可相成殊ニ流木之儀ハ伐取相濟山中」御極印打入之節過木相頭右過木不殘御取上相成、儀」過料一通ニ而可然奉存_レ也

追加

一 杉檜末木盜取_レ者 御定直段半分ニ致刑を加へ可申事

右同

一 山中伐荒有之當 山下村杉檜老本之代り小杉百本宛植付

人」相知不申_レ 雜木老本之代り小杉五十本ツ、植付可

節」 申付_レ也

但植付木之儀植付之多少ニ寄三ヶ年或ハ四ヶ年五ヶ年

七ヶ年」迄之内年限相定植付可申事尤被仰付之年限ニ

植付」不申節ハ伐荒相當之過料上納可申付事

(二九ウ)

右ヶ条寬政ニ山中伐荒有之科人相知_レ不申節ハ伐荒之多少ヲ以山下村過料可申付と御座_レ得其後伺之上杉

檜」者老本之代り小杉百本雜木ハ五十本ツ、植付過料

被」仰付罷有_レ然_レ文化元子年被仰付ニハ植付木ニ而

ハ御_レニ」相成不申_レニ付錢過料之儀御沙汰被仰付_レ

得共_レ而者」山下及潰_レ村所も可有御座殊ニ植付木盛木ニ相成_レ得者」徃々御益々相成_レニ付植付木是迄之通被仰付右年限ニ」植付不申節ハ過料上納之儀四奉行沙汰之通被仰付罷」有_レ也

寬政之御例

一 無極印材木賣買致_レ者 本品取上ヶ之上盜物乍存賣買致_レヶ条を以刑ヲ加へ可申事

○洪水之節流失木隱揚致_レ者御仕置之事

〔七三〕

寬政之御例

一 洪水之節流失木隱揚致_レ者過料左之通

一 拾本以下 過料壹貫二百文

一 拾本以上 同 壹貫八百文

一 貳拾本以上 同 貳貫四百文

一 三拾本以上 同 三貫文

一 四拾本以上 過料三貫六百文

一 五拾本以上 同 四貫二百文

一 六拾本以上 同 四貫八百文

一 七拾本以上 同 五貫四百文

一 八拾本以上 同 六貫文

(三〇オ)

- 一 九拾本以上 同 六貫六百文
- 一 百本以上 同〔七〕過料七貫二百文迄ニ而免可申事

○田畑之穀物ヲ盜取ル者御仕置之事 〔七四〕

安永寛政之御例斟酌

- 一 田畑ノ穀物ヲ盜取ル者 入墨之上盜賊之刑ニ三等重ク可申付事〔一〕

追加

- 一 野菜ヲほし〔五〕以〔六〕ま〔七〕に盜取ル者 盜品代錢ニ差積盜賊〔八〕ヲ以刑ヲ加ヘ可申事〔一〕

但入墨許之

寛政之御例

- 一 柴草木石之類人功ヲ以伐取或ハ積置ル〔九〕ヲほし〔一〇〕以〔一一〕ま〔一二〕に取ル者 右同断罪ヲ定ル事〔一三〕

○人ヲ勾引ル者御仕置之事 〔七五〕

御定書斟酌

- 一 人ヲ勾引他領江賣出ル者 斬罪 但末不賣者ハ三十敲十里追放

追加

- 一 同御領内江賣渡ル者 徒老年半三十敲 但末不賣者ハ廿七敲七里追放

右同

- 一 勾引者ト乍存買受ル者 賣渡ル者ニ等輕ク可申付事 但於不存ハ御搆無之

御定書斟酌

- 一 勾引ル者ト馴合賣遣分前取ル者 本人之刑ニ一等輕ク可申付事〔一〕

寛政之御例斟酌

- 一 人ヲ勾引ルニ付其者ニ疵付ル者 自国他国之差別無之 獄門〔一〕

○謀書謀判致ル者御仕置之事 〔七六〕

御定書寛政之御例斟酌

- 一 奉行諸役人之判ヲ似セ造諸渡物不盜取ル者 當人獄門 同類死罪〔一〕

卅一

- 但末財物ヲ不取得ル得ハ本人死罪一等ヲ減シ同類ハ徒刑一〔一〕等ヲ減シ可申事

安永寛政之御例酌

- 一 似セ印形似セ手紙或ハ手形ヲ 入墨ノ上錢高ヲ以盜賊取拵「公私ノ物ヲ取ル者 より二重ク可申付事

安永四年公義江御問合之点羽斟酌

- 一 物取ニ無之申訳之為斗ニ役所向之手形ヲ 十八敲所拂謀書致有合之印形押ル類

○寛政ニハ盜賊ニ準シ一等ヲ減シ可申事入墨許之と御座ルヘ共「此ケ条之罪ハ偽ル所之罪斗ニ而利欲之心無御座ルニ付御定」書随ヒ申ル

安永四年公義江御問合之点羽斟酌

- 一 同格同士又者町人同士右林之申訳之為斗ニ而役所向之手形ニハ無之共謀書致ル者 拾敲

○巧事(三)か(三)り事重キ(四)祢(四)り事故ル者御仕置之事 [七七]

御定書斟酌

- 一 か(三)り事之品對上ル者 語取ル錢五十貫文以上 斬罪

但右以下ハ盜賊之罪(五)五等重ク可申付事

[三一ウ]

右同

- 一 巧成儀ヲ申懸五度以上

金高雜物多少ニよ(六)ら須 斬罪

金子ヲ語リ取ル者

但四度迄ハ雜物代錢之多少を以盜賊之刑ヲ加ヘ可申事

御定書斟酌

- 一 惣而催促ニ逢或ハ預ケ物ハ届來ル 三十敲十里追放
- 人江申懸致シ疵付又ハ打擲致ル者
- 但刃物ニ而疵付ルハ、死罪

右同

- 一 重キ役人ノ家來ト偽か(七)り致ル者 十五敲
- 但取ル物高多キ節ハ盜賊之刑を以二重ク可申付事

○役人を似セ(八)ル者御仕置之事 [七八]

寛政之御例

- 一 在(九)ト通り役人ヲ似セ往來 三十敲十里追放
- 之人馬賄(十)ル出為差出(十一)ル者

追加

但賄并人馬(十二)ハ為差出ル共帶刀之上役人と偽村方之扱ニ相(十三)成(十四)ル者ハ二十四敲五里追放

○右ケ条安永ニ有之在(十五)ト通り役人を真似馬觸(十六)ル取拵往來人馬賄(十七)ル為差出(十八)ル者ハ斬罪と御座ル得共寛政之御例(十九)

之通ニ而可然奉存ル

○帶刀致ひ百姓町人御仕置之事 〔七九〕

御定書斟酌

一 自分と百姓町人帶刀致罷有ひ者 刀脇差取上ケ叱り

○似セ金銀ヲ拵ゝ者并錢ヲ鑄ひ者御仕置之事 〔八〇〕

御定書寛政之御例

一 贖金銀を拵ひ者并私ニ錢ヲ鑄ひ者 磔

但細工人同罪其余加談之者ハ徒老年半三十敲可申付事

寛政之御例

一 贖金銀乍存通用致ひ者 徒老年半三十敲

○贖科贖舛ヲ拵ひ者御仕置之事 〔八一〕

御定書斟酌

一 贖科拵ひ者 獄門

但懸ケ目違於無之ハ二十四敲五里追放

右同

一 贖舛拵ひ者 獄門

但入目違於無之ハ廿四敲五里追放

○右ケ条寛政ニ私升秤等ヲ造り并ニ通用舛ヲ増減致奸

曲ひ者鞭六卜御座ル然共御定書ニ本文之通ニ御座ル而

升「科贖造り儀ハ 御領内ニ限り不申天下一統之御

法ニ付」御定書之通相定申ル尤右之内似セ舛之儀在方

商賣物ニ多」相用ル得共一林贖舛と申者焼印ホ迄似セ

拵穀物ホ奸曲仕」ひ者之儀ニ可有御座奉存ル在方杯之

賣物ニ相用ル無極印舛ハ」唯人物之大小を以直段高下

相定ル迄ニ而似セ舛と申ニ無」御座ル間右等之分ハ是

迄之通ニ而可然奉存ル」

○似セ葉種商賣致ひ者御仕置之事 〔八二〕

御定書斟酌

一 似セ葉種商賣致ひ者 死罪

○賄賂ヲ受ケ不筋之捌扱致ひ者御仕置之事 〔八三〕

寛政之御例斟酌

一 村役町役之類 錢高五貫文以下五敲五貫文以上十敲

賄賂ヲ受ケ不筋 五貫文毎ニ」一等ツ、重ク可申付事

之捌或ハ扱致ひ者 尤百ニ貫文以上死罪之代リ」三十敲

徒二年ニテ許可申事」

但何人ヲ受ル而も惣錢押合其高を以罪ヲ定ル事若其事

重クハ、畏負偏頗ヲ以人之罪ヲ或ハ重シ或ハ輕ク致、

ケ条」ヲ以刑ヲ加ヘ可申事

○賄賂ヲ受ケル斗ニテ不筋之捌扱無之者御仕置之事〔八四〕

寛政之御例斟酌

一 村役町役之類頼ヲ受ケ 拾貫文以下五敲拾貫文以上五敲
賄賂ヲ取ル斗ニテ不筋 十貫」文毎ニ一等重ク可申付事
之捌或ハ扱不致者 尤百二十貫」文以上徒一年半三
十敲ニ而許可申事」

但何人ガ受ケル而も惣錢押合半分ニ致シ罪ヲ定メ事尤
一人」より受ケル分ハ半分ニ不致事

御定書ニ公事諸願其外請負事ハニ而賄賂差出メ者并
取持致ル者但賄賂受ルもの其品相返於出申者賄賂差出
ル者并取持致ルもの共村役人ニルハ、役儀取上百姓ニ
ルハ、過料可申事と御座ル得共夫ニ而ハ輕ク奉存、
儀本文之通相定」申ル

○不筋之財物取ル者御仕置之事〔八五〕

寛政之御例斟酌

一 打擲ニ逢ル者療治 拾貫文以下戸ノ廿日十貫文以上戸ノ
代之外ニ錢ヲ取ル 三十日二十貫」文以上五敲十貫文毎

きり」取ル者之類 二一等重可申付事尤百廿貫」文以上
三十敲十里追放ニ而許可申付事」
但惣錢半分ニ致シ罪ヲ定ル事前条同様之事尤あハル
者ハ五等輕ク可申付事

寛政之御例斟酌

一 村役町役ニ而諸年貢上納錢諸割台高之内
自分依怙畏負之者ガ多取立理合ニ致メ類 右同斷
但書前条同斷

○右ケ条寛政ニ坐贓之刑ニテ差テ頼合事も無之通例只財
ヲ」受ル類ハ坐贓之罪ニ可行事ト御座ル得共右林之類
為差」御取扱ニ相成ル儀も無御座ル間此度評議之上右
之通相定申ル」

○賄賂之約諾致ル者御仕置之事〔八六〕

寛政之御例

一 賄賂之約諾致シ未財物手ニ入不申ル共事ヲ狂ルものハ賄
賂ヲ」受ケ不筋之捌扱ルケ条ニ準シ一等輕ク可申付事約
諾而已ニ而」事ヲ狂不申ル得ハ賄賂ヲ受不筋之捌扱不致
ケ条ニ準シ一等」輕ク可申付事

○賄賂ヲ受贈ル者御仕置之事

〔八七〕

寛政之御例斟酌

廿四 一 下之者願事有之賄賂ヲ贈ル而法ヲ狂ル事を得ル得ハ差出

ル「錢高ヲ以不筋之財物を取ルケ条ニ準シ刑ヲ加可申事

重ク」事無之得ハ右之刑ヲ三等輕ク可申付事尤狂ル事

重ク」ハハ、重キ方ニテ沙汰可致事若上たる人強ル而無

抛差出ルハ、御咎メ無之事

○御定書ニ公事諸願其外諸負事ホニ付賄賂差出ル者

并取物致ル者輕キ追放但賄賂受ル者其品相返シ於

申出者賄賂差出ル者并取持致ル者其村役人ニハハ、役

儀」取上百姓ニハハ、過料可申付事と御座ル得共寛政

之御例」之通錢高ヲ以刑ヲ定ル方可然奉存ル

○茂合取立私曲致ル者御仕置之事

〔八八〕

寛政之御例

一 茂合錢為致私曲致ル者

賄賂ヲ受不筋之之捌扱致ルケ条

ニ準」錢高ヲ以刑ヲ加ヘ可申事

但音信ニ相用自分遣不申ル共同様之事

○拾ヒ物致シ不訴出者御仕置之事

〔八九〕

御定書斟酌

一 拾ヒ物致シ不訴出

儀頭ニお以て

拾ヒ物取上 過料壹貫二百文

〔三四ウ〕

○宿意ヲ以人ヲ殺ル者并疵附ル者御仕置之事

〔九〇〕

御定書寛政之御例斟酌

一 宿意ヲ以人ヲ殺ル者

長本人 獄門

御定書ニ差圖を致シ人ヲ為殺ル者下手人と御座ルハ本

文之」長本人ニ相當申ル安永ニ遺恨有之殺ル者ハ下手

人と御」座ル尚又御定書ニ人ヲ殺ル者ハ下手人と斗御

座ル得共」一時之喧嘩打擲ホニ而之入殺之趣ニ相聞得

申ル子細ハ御」定書あ者れ者御仕置之ケ条ニ遺恨ヲ以

拾人以上徒黨」ヲ結狼籍之上人ヲ殺ニおゐてハ頭取獄

門但人ニ於疵付者」頭取死罪と御座ル亦人殺之ケ条ニ

自己之惡事可頭ヲ厭ヒ」其人ヲ殺或ハ僉議志する人を

遺恨を含切殺ル者ハ獄門ト」御座ル右之趣を以評儀之

上前書之通相定申ル

安永寛政之御例

一 同加談手傳致シ人を殺ル者 斬罪

御定書ニ差圖を受ケ人ヲ殺ル者ハ遠嶋ト御座ルケ条

放「加談手傳之者
十五敲

卅五

御定書寛政之御例斟酌

安永ニハ人ニ被頼人ヲ殺ル者ハ斬罪ト御座ルケ条并寛
政ニ「加談手傳致シ人ヲ殺ル者ハ斬罪ト申ケ条ト同然
ニ御座ル」然共差圖を受ケ人ヲ殺ルても人ヲ殺ル上ハ
下山人難遁奉」存ル間安永寛政之御例ニ随ヒ申ル
(三五オ)

一 同加談斗ニ而手傳不致者并人殺之手引
徒一年半三十敲

致シ手傳不致者

御定書ニ人殺ニ手傳ハ不致ル得共荷擔致ル者中追放尤
人「殺の手引致ル者ハ遠嶋但殺ル當人致欠落於不出ハ
下」手人と御座ル得共跡ル當人出ル而も其節ニ至リ活
命難「相成儀ニ付徒敲ニ而可然奉存ル

右同

一 同疵付ル斗ニ而不死時ハ
張本人 斬罪

但荷擔手傳致ル者ハ徒老年半鞭三十

○御定書ニ自分之惡事可顕ヲ厭ヒ其人ヲ可致殺害トシテ
疵「付或ハ僉議志ルる人ヲ遺恨ヲ含手疵負セル者死罪
ト御座」ルハ本ケ条之張本人ニ相當ルニ付本文之通相
定申ル」

寛政之御例

一 同疵付不申ル共其事ヲ行ヒ得ハ
張本人三十敲十里追

右同

一 右之張本人ハ譬其場ニ不臨ル共本罪前書同然之事加談之
者之「其場ニ不臨ル得ハ其場ニ臨ル者ル罪一等ヲ許可申
(三五ウ)

事」

○御定書ニ差圖を致人ヲ殺ル者ハ下山人と御座ルケ条ニ
則右之張本人ニ相當申ル

右同

一 人ヲ殺これニ依テ財宝ヲ取ル者
張本人加談人不殘 磔

右同

一 右加談人之内財物ヲ分ケ取不申ル得ハ
斬罪

○宿意ヲ以主人或ハ主人之親族古主ヲ殺ル者又ハ為手負ル者
御仕置之事
(九一)

御定書并安永寛政之御例斟酌

一 主殺 一日引廻ニ日肆鋸引之上 磔

御定書安永之御例

一 主人ニ為手負ル者 肆之上 磔

○右ケ条安永之御例ニ肆之節鋸引立札ニ不及磔と御座ル

寛政ニハ肆不申御定書安永之通ニ御座ル

御定書寛政之御例斟酌

- 一 同切かゝり打かゝりル者并致打擲ル者 獄門

卅六

○右ケ条御定書ニハ死罪寛政ニハ弑逆之奉行ヒ得ハ磔致」打擲ル得ハ獄門と御座ル然処主人ニ疵付ル得ハ肆之上磔古主ニ」切かゝり打かゝりル者死罪ニ付両様斟酌仕ル得ハ此刑獄門ニ而可然」奉存ル

追加

- 一 人ヲ頼主人ヲ殺ル者 自身主人ヲ殺ル者ト同罪安永之御例

- 一 同被頼ル者 獄門

御定書安永寛政之御例

- 一 主殺之者自滅ニおゐてハ 凡例ニ出之

御定書安永寛政之御例斟酌

- 一 主殺之者之悴 家屋敷取上家財欠所之上 拾里追放但十五歳以下ニルハ、追放之儀申渡身寄之者共江預ケ置十五」歳ニ相成追放可致事

○公儀御書付ニハ主殺親殺科人之子ハ伺之上御仕置可申付ル」親類ハ構無之得共所江預置悪事之企不存ニ決ルハ、可差赦ル」此外火罪磔ホニ成ル者之子共構無之

事と御座ル安永ニキ」主殺親殺之者之子男子十五歳ル

以上ハ重鞭刑追放十五」歳以下ハ鞭刑追放被仰渡自寄

ト御預十五歳ニ相成重キ鞭」刑追放ト御座ル寛政ニハ

主殺親殺之妻子ヲ追放家屋」敷家財欠所但別居之子ハ御用捨之事ト御座ル然処御定」書之内御仕置ニ成、者

之悴出家願出、と前書ニ申上ル」御書付之主殺親殺之

子ハ伺之上御仕置可付申事と」御書付之主殺親殺之子

ハ伺之上御仕置可申付事と」申ケ条と引合仕ル得ハ主

殺親殺科人之子之内悴老人」御仕置被仰付ル事と奉存

ル間此度右之趣ニ随ヒ相定ル」

安永寛政之御例

- 一 主人ヲ怪我ニ而殺ル者 斬罪

右同斟酌

- 一 同怪我ニ而疵付ル者 徒壹年半鞭三十

御定書斟酌

- 一 主人之親類ヲ殺ル者 獄門

追加

但親類トハ服忌有之者并重キ縁類ホ時宜之御沙汰可有之事

御定書斟酌

一 主人之親類江手負ゆ者

斬罪

右同

資

卅七

同切かゝり打かゝりゆ者

鞭三十徒二年

(三七ウ)

○右ケ条御定書ニ兼而巧ゆ事ニハ、死罪ト御座ゆ得共

評「議之上」一等輕ク相定申ゆ

御定書

一 古主ヲ殺ゆ者

肆之上 磔

○右ケ条安永ニハ當主人ヲ殺ゆと同罪ニ御座ゆ寛政ニハ

肆不「申ゆ此ケ条御定書之通ニ御座ゆ

御定書斟酌

一 同為手負ゆ者

獄門

右ケ条安永ニ本主人を致殺書ゆと同罪ニ御座ゆ御定書ニ

ハ「引廻之上磔と御座ゆ得共評議之上獄門ニ相定申ゆ

右同

一 同切かゝり打かゝりゆ者

兼而巧ゆ事ニ有之ゆハ、斬

罪 當座之事有之ゆハ、

徒二年 敲三十

○右ケ条御定書死罪ト御座ゆ得共前書同様評議之上兩様

ニ「相定申ゆ

○宿意ヲ以親或ハ親族ヲ殺ゆ者并手負セゆ者御仕置之事「九二

安永寛政之御例

一 親殺

一日引廻ニ日肆鋸引之上

磔

○右ケ条御定書ニ引廻之上磔と御座ゆへ共安永寛政之御

例共「主殺同様ニ御座ゆ間右之通相定申ゆ

御定書

一 親江為手負ゆ者

肆之上 磔

○右ケ条御定書ニ磔と御座ゆ寛政ニハ疵付不申共謀殺行

ヒ「ゆ得ハ磔と御座ゆ得共前書ノ主江為手負ゆ者ト同

様ニ付右之通」相定申ゆ

御定書寛政之御例斟酌

一 切かゝり打かゝりゆ者并致打擲ゆ者

獄門

○右ケ条安永ニ無御座ゆ御定書ニハ死罪寛政ニハ磔と御

座ゆ得共「評議之上獄門ニ相定申ゆ

御定書安永寛政之御例斟酌

一 親殺之者之悴

家屋敷取上家財欠所之上 拾里追放

但拾五歳以下ニゆハ、追放之儀申渡身寄之者江預ケ置

十五歳ニ「相成追放可致事

○右親殺之者ノ悴御仕置之儀委曲主殺之者之悴御片付

方之処へ申上ゆ通御座ゆ

御定書安永寛政之御例

卅八

親殺之者自滅ニおゐてハ
寛政之御例

凡例ニ出之
(三八オ)

一 親ヲ怪我ニテ殺ム者

斬罪

追加

但怪我之證把握ニテ被殺ム者之親或ハ兄弟ヲ助命之願
於申出ハ時宜御沙汰之事

○怪我ニテ親ヲ殺ム者之儀与得沙汰仕ム処其者常々行跡
ホ不「宜者ニモ格別孝心之者ニモ右跡怪我有之間敷儀
ニモ」無御座ル様ニ奉存ム処右科ニ寄其子斬罪相成ル
儀ハ被殺「ル者之本意ニモ有御座間敷哉ニ奉存ル間右
之通相定申ル」

○御用人点羽 仮令怪我ニテ親ヲ殺ムテモ斬罪ニ被仰付
様」依テ但書ハ削リル様

安永之御例斟酌

一 親ヲ怪我ニテ疵付ル者

徒壹年半 敲三十

安永之御例 親之願ニ寄御用捨之事

寛政之御例

一 祖父母以上并妻夫之祖父母或ハ夫ヲ殺ム者 引廻之上磔
但母方之祖父母同様之事

右同斟酌

一 同為手負ル者

獄門

右同

(三八ウ)

一 同切かゝり打かゝりル者

斬罪

安永寛政之御例斟酌

一 伯叔父姑兄弟ヲ殺ム者

磔

御定書引廻之上獄門と御座ル得共磔ニ而可然奉存ル

御定書斟酌

一 同為手負ル者

斬罪

○右ヶ条寛政ニハ獄門ト御座ル得共上ヶ段々次第仕ル得
ハ此処斬「罪ニテ宜敷様奉存ル

寛政之御例

一 同切かゝり打かゝりル者

徒壹年敲三十

右同

一 子并孫ヲ殺ム者

徒壹年半敲三十

安永之御例斟酌

但偽ヲ致シ錢ヲ添貫ル養子ヲ殺ム者死罪

○右ヶ条之内御定書ニ孫ヲ殺ム者刑無御座ル安永ニ子ヲ
殺ム者」不及解死人時宜御沙汰と御座ル尚又御定書ニ
実子養子短慮」よて風と殺ルハ、遠嶋親方之者利徳ヲ

以殺ゆ者死罪と御座ゆ」得共妻子ニ御座ゆ得ハ子之為ニ親ヲ下手人ニ仕ゆ儀ハ相當」不申儀と奉存ゆ間右一ケ条ニ相定申ゆ」

卅九

(三九〇)

寛政之御例

一 弟妹甥姪ヲ殺ゆ者

斬罪

○右ケ条御定書ニ脇書之通子ヲ殺ゆ同様ニ御座ゆ安永ニハ「弟ヲ」無故我儘ニ殺ゆ者ハ斬罪ト御座ゆ得共是又寛政之御例ニ而」宜様ニ奉存ゆ

○省意ヲ以師匠ヲ殺ゆ者并疵付ゆ者御仕置之事

(九三)

御定書

一 師匠ヲ殺ゆ者

磔

○右ケ条寛政ニハ打擲之上殺ゆ得ハ磔と御座ゆ

御定書

一 同為手負ゆ者

死罪

○宿意ヲ以支配受ゆ頭分之者殺ゆ者并疵付ゆ者御仕置之事

(九四)

寛政之御例

一 支配ヲ受ゆ頭分ヲ殺者

獄門

右ケ条御定書ニ支配を請ゆ名主ヲ殺ゆ者ハ引廻之上獄門ト御座ゆ」

同

一 同為手負ゆ者

死罪

(三九ウ)

○一家之内三人ヲ殺ゆ者御仕置之事

(九五)

寛政之御例

一 一家之内死罪あらざる人三人を殺并

引廻之上 磔

人之肢體ヲ切ほときむこく殺害致ゆ者 家財欠所死者之

家江被下ゆ」

但妻子ハ遠追放致加談ゆ者并手傳致シゆもの共ニ獄門

(九六)

○呪祖調伏毒藥ヲ以人ヲ殺ゆ者并苦志^志めゆ者御仕置之事

寛政之御例

一 呪詛調伏ヲ以人ヲ

宿意ヲ以人ヲ殺さんと謀ゆケ条ヲ

殺さんと者^志かりゆ者 以罪ヲ加へ」可申事

右同

一 同唯人ヲ苦めんと謀ゆ者

前書ノ刑^志ニ等ヲ減ゆ事

御定書

一 毒薬ヲ以人ヲ殺ル者

獄門

御定書斟酌

一 同毒薬ヲ用ル得共其者於不死者 徒壹年半三十敲

御用人点羽此ケ条辞不足ニ付左之通認直ル様

毒薬ヲ用ル得共其毒ニ不當者於不死ハ

寛政之御例

一 右同薬ヲ買テ未不用ル者

敲三十拾里追放

御定書斟酌

一 毒かひニ相用ル儀ヲ乍存毒薬ヲ賣ル者 本人同罪

但不知時ハ御咎無之事

○喧嘩打擲ニテ人ヲ殺ル者御仕置之事

〔九七〕

安永寛政之御例斟酌

一 喧嘩打擲ニテ人ヲ殺ル者

斬罪

寛政之御例

一 同謀テ人ヲ打擲致シ依之死ニ至ル得ハ急処之疵ヲ得させ

ル者」解死人ニ可致事

御定書寛政之御例斟酌

但取初事ヲ企ル者ハ徒壹年半鞭三十餘人ハ何レも鞭十

五」尤急処之疵ヲ附ル者不相分節初発打カ、リルを下
手」人と可致事

御定書斟酌

一 相手ノ理不尽 相手方親類村役名主僉議之上被殺ル者

之儀ヲ仕懸不得 平日不法者ニ相違於無之ハ徒一年半敲

止事於切殺者 三十」

御定書

但御家中召仕之者ハ被殺ルもの、主人ノ願無之ルハ、

仮令親」類ハ願ル共差許申間敷事

〔四〇ウ〕

○危キ致仕業人ヲ殺ル者御仕置之事

〔九八〕

寛政之御例

一 危キ致仕業人ヲ殺ル者

打擲ニテ人ヲ殺ルと御仕置
同様之事」

○人たかへ致シ別人を殺ル者御仕置之事

〔九九〕

寛政之御例

一 喧嘩ハニより傍ノ人ヲ殺

打擲ニテ人ヲ殺ルと御

或ハ疵付ル者」

仕置」同様之事

右同

- 一 謀テ人ヲ殺サンとしてあやまて 人殺ヲ沙汰可致事
- 別人ヲ殺或疵付ル者

○怪我ニテ人ヲ殺或ハ疵付ル者御仕置之事 (一〇〇)

御定書安永寛政之御例斟酌

- 一 怪我ニテ人ヲ 吟味之上あやまちニ無紛并怪我人之親殺或ハ疵付ル者 類「存念相尋ル上あかなひ取其者江被下ル事」

○罪有之妻妾ヲ殺ル者御仕置之事 (一〇一)
(四一) 寛政之御例 (四一オ)

- 一 妻妾夫ノ祖父母父母ヲ打擲ニ寄其夫これヲうち依テ死ニ至「ル得ハ御構無之若又右之事ニ付強テほし以まゝ殺ル者ハ」敲十五 下
- 但外之罪ホニ寄打殺ルハ、可及手人事

- 一 夫妻妾ヲ打擲シ或罵等致ルニ寄其妻妾自殺致ル者不及御沙汰ル事

○離別之妻江疵付ル者御仕置之事 (一〇二)

御定書斟酌

- 一 離別之妻ニ疵付ル者 乞食手下ケル様

○弓鉄炮ニテ人ヲ殺ル者御仕置之事 (一〇三)

御定書寛政之御例斟酌

- 一 弓鉄炮ヲ放シ 吟味之上あやまちニ無紛并怪我之親類あや」まちニ而 存念」相尋ル上怪我ニ而人ヲ殺ルケ条人ヲ殺ル者」 ヲ以刑ヲ加ヘ可申事」

御定書

- 一 一定^五り堂る矢場鉄炮場ニテ外^五不慮ニ人参りかゝり若矢玉ニ当リ」譬其人死ル共不及咎三十日遠慮可申付事 (四一ウ)

○牛馬ニテ人ヲ殺或ハ疵付ケル者御仕置之事 (一〇四)

御定書

- 一 牛馬ヲ引懸ケ人ヲ殺ル者 斬罪
- 但馬主之者不慎之儀無之怪我同様之於仕方ハ怪我ニ而人ヲ殺ルケ条を以あかなひヲ取死者之家江被下ル事

御定書

一 右之仕方ニ而疵ヲ得させし者 打擲之御仕置ヲ以疵之多
少ニ寄^レ刑ヲ加ヘ可申事

但怪我ニテ疵付^レ得ハあかなひを取疵ヲ得^レ者江被下
^レ事

○人ヲ威シ逼セ死ヲ致サセ^レ者御仕置之事 [一〇五]

寛政之御例

一 事ニ依テ人ヲ威シ逼セ 敲十五并為片付料金ニ両ヲ出サ

其人ニ自殺致セ^レ者 志^レめ死者之家へ被下^レ事

但若為密通或ハ盜ヲ致^レし^レめ人を威シ逼セ死ヲ致セ^レし

者ハ^レ獄門

御用人点羽

人ヲ逼セ其人ニ自殺致セ^レ者ハ人殺も同様ニ付此ケ条

ハ死罪^ニ可被仰付哉 [四二〇]

四十二

○辻切致^レし者御仕置之事 [一〇六]

御定書斟酌

一 辻切致^レし者 引廻之上 獄門

○御定書ニ引廻之上死罪ト御座^レ得共重罪ニ付右之通

相定申^レ

○僧侶人ヲ殺^レし^レ節并疵付^レし^レ節御仕置之事 [一〇七]

御定書

一 僧侶人ヲ殺^レ疵付^レし^レ科俗人ニ替無之

但寺持^ト一^ト等重ク可申付事

○人殺内濟致^レし者御仕置之事 [一〇八]

御定書寛政之御例斟酌

一 祖父母父母人之為ニ殺させ連^レを内濟ニ致^レし者 徒老年半
敲三十

但村役町役加談致^レし^レ賊又ハ乍存於不訴出^レ者過料三貫

文^ニ五軒組合より過料三貫文

寛政之御例斟酌

一 夫被殺^レを内濟ニ致^レし者 徒老年半敲三十

但村役町役五軒組合過料右同断 [四二ウ]

右同

一 伯父叔父姑兄姉夫之父母被殺^レヲ内濟致^レし者 敲二十七

但村役町役五軒組合過料右同断 七里追放

料

御定書寛政之御例斟酌

一 子孫人之為ニ被殺ルヲ内済ニ致ル者

敲九

但村役町役五軒組合過料右同斷

資

御定書斟酌

一 邪曲ヲ以輕親類縁者人ヲ殺ル儀内證ニ而取扱事済ル者

過料 二貫文

但村役町役五軒組合過料右同斷

○御定書ニ邪曲ヲ以親類縁者人を殺ルを内證ニ而取扱事

済ル者過料ト御座ル得共親類之分ハ互ニ相隱ルハ人情

ニ御座ル処重キ親類之間ニ而相顯ル節御咎被仰付ル

而ハ人情ト相反ルニ付寛政之御例ニも重キ親類之分

悪事有之ル而相隱ル而も御咎無之ケ条も此儀ニ付

此度沙汰之上此処輕キ親類縁者と相定申ル

御定書寛政之御例斟酌

本人敲三 村役町役五軒組合致加談

一 人殺ル内済致ル者 力又ハ乍存於不訴出ハ村役町役過

料三貫文五軒組合右同斷

御定書ニ人殺ル取扱ル者有之内證ニテ事済シ殺ル者ヲ

為立退ル儀迄乍存於不訴出者名主追放組頭所拂ト御

四十三

御座ル右同御定書ニ親被殺ルを不骸見届ル得共物入を

厭」村役人相談之上於不訴出ハ當人遠嶋名主輕追放

組頭」処拂ト御座ル得共人殺内済之内祖父母以下血縁

之者被殺」ルを他人之被殺ル内済同様ニ御刑法相立ル

而ハ相當ル様奉」存、儀寛政之御例ニ随ヒ此度親族

被殺ル節致内済ル者」親族之輕重ニ随ヒ夫々御刑法相

定申ル

寛政之御例

一 人殺為内済賄賂ヲ取ル者錢之高ヲ以盜賊ニ準重キ方ニ而

沙汰可致事

右同

一 父母殺されルを内済致賄賂を取ル者 斬罪

右同

一 同居或ハ同行之内初ル其人を謀テ害サントまるを 敲十五

乍存不留者并被殺ル後不訴出者

御定書

一 家焼失之時親焼ルを捨置逃出ル者 死罪

御定書斟酌

但祖父母伯叔父母兄弟姉ヲ焼死為致ルニおめてハ敲廿四

五里追放

○御定書ニ酒狂人御仕置并乱氣ニ而人ヲ殺む者之ケ条ニ

酒「狂ニテ人ヲ殺或ハ疵付得ハ本性ニテ致む者ト御
刑法同様」尤被殺主人親類_下手人 御免之願申出、
共取上申間「敷事ト御座ハ乱氣ニ而人ヲ殺む者ハ下手
人然共乱心之」證拠慥ニ有之上殺されむ者之主人并親
類_下手人御「免之願申出ニおゐてハ遂僉議可相回事
但主殺親殺タリ共」乱氣於無紛者死罪ト御座ハ左ハ得
ハ主殺親殺ニ無之由而も」乱心に而人ヲ殺ハ分も活命
ト相成儀文面駈ト相分不申ハ」殊ニ酒狂乱心之儀ハ
程考量も難相定且又虚實も」分明ニ相分不申ハ儀ニ付
人殺之者如何様之取巧ニ而酒狂」乱心と偽りハ儀モ可
有御座哉も難斗奉存ハ仮令被殺ハ」者之主人親類_下
手人御免之願申出ハ共義ニおゐて」活命難被仰付筋之
者ニ奉存ハ間平氣ニ而人ヲ殺ハ同罪」ニテ可然様奉存
ハ安永之御例も平氣ニテ殺ハト同科同罪」ト御座ハ寛
政ニハ乱心者ハ癩疾ト同様ニ御座ハ得共酒狂之ケ条」
無御座儀ハ人ヲ殺亦ハ疵付ハ類酒狂といへとも本罪_右
輕ク仕ハ」筋無御座ハ故ニ可有御座哉ニ奉存ハ随而酒
狂之ケ条相立」不申ハ乱心者之儀ハ片輪者之ケ条ニ差

四十四

出申ハ

(四四才)

○喧嘩打擲御仕置之事

(一〇九)

○御定書ニ口論之上人ニ疵付片輪ニ致む者中追放但渡世
も難」成程之致片輪ハ、遠嶋○人ニ疵付ハ者療治代
疵ノ多少ニ」不依町人百姓共銀壹枚と御座ハ得共右ケ
条斗ニ而ハ打擲」致む者御座ハ節何程之疵ハ片輪又ハ
渡世難相成と申儀」見切も難相成且又片輪ニも色々次
第も御座ハ故其時々」區々之沙汰も可有御座奉存ハ儀
寛政之御例ニ隨ヒ委敷」ケ条ヲ相立申ハ

寛政之御例

一 手足或ハ外之物を以人を打擲致む者

戸ノ十日

右同

一 同疵付ハ者

戸ノ廿日

但打ハ処破れまハ共青赤ニ腫ハヲ疵ト定ハ事

右同

一 血鼻口_右出或ハ内損血を吐む者

敲九

右同

一 不浄之物ヲ以人之頭面を汚む者

敲九

右同

- 一 齒壹枚或ハ手足之指壹本ヲ打目片方ヲ傷
并ニ耳鼻ヲ傷ゆ者 敲十五

(四四ウ)

寛政之御例

- 一 湯火を以人を傷ゆ者并不淨ヲ以人ノ口鼻ノ内江入ゆ者

敲十五

右同

- 一 齒二枚指二本以上折ゆ者

敲十八 處拂

右同

- 一 人之骨ヲ折或ハ両眼ヲ傷或ハ婦人之

胎ヲ墮シ并一切之刃物之切疵者

敲廿四五里追放

但兵器ニテモ柄ヲ以打ゆ類ハ刃物ニ者無之事

右同

- 一 手足片方ヲ折或ハ目片方ヲ潰ゆ者

敲三十里追放

右同

- 一 両手足を打或ハ両眼ヲ潰シ或ハ持病有之処 徒壹年半

是ニより片輪ニ至ら志めゆ者并人之陰陽ヲ傷 敲二十一

ゆ者

但右科人之家財半分ヲ以疵ヲ得ゆ者江被下ゆ事

右之條々之科人大勢ニテ犯ゆ節付ケル疵ヲ以右ヶ条江

引「合夫ミ之刑ニ可行事打擲致ゆ而も疵付ケ不申者ハ
戸ノ」廿日ニテ許可申事尤疵付ケル者之内重キ疵付ケ
ゆ者ヲ」本人と定本趣意企ゆ者ハ疵付ケ不申ゆハ、本
人ノ一等」輕ク可申付事

寛政之御例

- 一 喧嘩ニテ双方疵ヲ得ゆ節双方之疵相改疵ノ輕重ニテ罪ヲ
定ゆ事尤跡ノ手ヲ下シ理直キ方ハ二等ヲ減可申事

御定書安永之御例斟酌

- 一 喧嘩口論ニテ人ニ疵付ケ 痛損之道具代為差出

不申ゆ共諸道具ヲ痛ゆ者

戸ノ十五日

○疵療治之事

寛政之御例

- 一 疵ヲ蒙りゆ者日限ヲ立打擲致ゆ者より療治

致サ志む遍き事日限之内死ゆ得ハ打擲之者可為解

死人事若日限之内ニテモ瘡平愈致ゆ断差出、後

餘病ニテ死ゆ得ハ只打擲之罪ヲ加へ可申事

御定書ニ手疵負ゆ者元より及死ゆ疵ニテ無之処平愈迄

之内余病差発死ゆ者弥逐吟味余病ニテ死ゆニ於紛

無之ハ相手下手人ニ不及事と御座ゆ

寛政之御例

一 指毫本ヲ打^新ル以上之疵日限之内療治ニテ平愈致^レ得ハ罪

二 等ヲ減^通シ日限満る日迄平愈無之者ハ右之本刑

ヲ相用^ル事婦人之破産并病氣平愈ニテモ瘡疾ホニ

至^リ得ハ罪減シ申間敷事

右同

(四五ウ)

一 手足其外之物ニテ輕キ打疵ハ廿日限金創火毒ハ三十日

限手足ヲ打^新骨痛ミ婦人之墮胎者五十日限

右同

一 争論ニ依テ人ヲ縛リ打擲シ或ハ於私家人ヲ押込等致^レ者

敲九

但疵重ク内損吐血以上ニ至^リ得ハ打擲之刑^ノ二等重

ク可申付事尤自分手下シ不申^ル共差圖致^シ得者本

罪ニ可致事差圖ヲ受手ヲ下シ^ル者一等輕ク可申付事

○主人下人ヲ打擲致^ル者并主人怪我ニテ下人ヲ殺^ル者御仕置

之事

(一一一)

寛政之御例

一 主人下人ヲ 輕キ疵者不及御沙汰事折傷以上之疵者

致打擲^ル者 平人打擲^ル四等輕ク可申付事死ニ至^リ得

ハ敲十八」所拂

右同

一 同怪我ニテ殺^ル者

不及御沙汰事

○妻妾夫ヲ打擲致^ル者御仕置之事

(一一二)

寛政之御例斟酌

一 妻妾夫ヲ致 敲十五打傷以上之疵ハ平人^ノ三等ヲ可加事

致打擲^ル者 日片方」潰^シル以上ハ斬罪死ニ至^リ得ハ

四十六

磔

但妾ハ夫并妻ヲ打擲致^ル得ハ妻夫ヲ打擲致^ル罪^ノ一等

重ク可申付事骨ヲ折両眼ヲ破^ル得ハ斬罪死ニ至^リ得

得ハ磔

寛政之御例斟酌

一 夫妻ヲ打擲 打傷以上ニ非連^レハ不及御沙汰事右以上ハ平

致^ル者 人」之打擲^ル二等輕ク可申付事死ニ至^ル得

ハ死罪

但妾ヲ打擲致^ル折傷以上ニ至^リ得ハ亦二等輕ク可申

付事死^ル」至^ル得ハ敲三十里追加

追加

一 同怪我ニテ殺^ル得ハ 不及御沙汰事

寛政之御例

- 一 妻之妾ヲ打擲致_レル者夫ノ妾ヲ打擲致_レル同様之事怪我ニテ殺_レル得_レハ其證拠於分明ハ不及御沙汰事

○親屬之打擲御仕置之事

寛政之御例

- 一 伯叔父姑兄姉ヲ致打擲_レル者 敲二十七 七里追放
但疵付_レル得_レハ敲三十里追放折傷ハ徒老年半敲三十刃傷」并手足ヲ打_レ目片方ヲ潰_レル以上ハ斬罪死ニ至_レル得_レハ獄門怪」我ニテ殺_レシ或ハ疵付_レル者ハ宿意ヲ以殺_レ又ハ疵付_レルものゝ刑より」二等輕ク可申付事尤あかなひニ難相成事」

寛政之御例斟酌

- 一 祖父母ヲ打擲致_レル者并妻トシテ夫之父母ヲ打擲致_レル者 斬罪」

但死ニ至_レル得_レハ獄門怪我ニテ殺_レル得_レハ怪我ニテ父母ヲ殺_レルト」同様之事

寛政之御例

- 一 弟妹甥姪ヲ打擲ニテ殺_レル者 敲三十 十里追放
但怪我ニテ殺_レル得_レハ證拠於分明ハ不及御沙汰事

右同

- 一 子孫ヲ打擲ニテ殺_レル者

敲十五 継母ハ一等重ク可申付事」

但子孫祖父母ヲ罵_レリ或ハ打_レルニより依之子孫ヲ打擲致死ニ」至_レル得_レハ不及御沙汰事怪我ニテ殺_レル得_レハ是又同様之事」

○師匠ヲ致打擲_レル者御仕置之事

寛政之御例斟酌

- 一 師匠ヲ打擲致_レル者 平人_ノ二等重ク可申付事
但死ニ至_レル得_レハ獄門

(一一四)

○父母人ニ被為打擲其子孫返シ打致_レル者御仕置之事(一一五)
四十七 輕キ疵ハ不及御沙汰打傷以

寛政之御例

- 一 祖父母父母人之為ニ被為打擲」其子孫救_レル為返打致_レル者」 三等輕ク可」申付事死_レ至_レル得_レハ可為下手」人事

○支配ヲ受_レル頭分ヲ致打擲_レル者御仕置之事

追加

- 一 支配ヲ受_レル頭分ヲ致打擲_レル者 平人之打擲_ル三等重ク可申付事」

(一一六)

○訴訟御仕置之事

(一一七)

御定書寛政之御例斟酌

- 一 諸願申出、者一通之吟味之上難成願ハ其趣申聞重テ願出
ルハ、咎可申付旨急度申付其上願出、ハ、十五日戸ノ可
申付事

但支配頭江願出無取上儀ニ付戸ノ申付、処 達而箱訴
并御役人江訴訟ニ罷出ルハ、奉行ニテ遂吟味弥於難立
願ハ三十日戸ノ可申付事尤願可相立筋ヲ支配頭ニ而取
押置或ハ支配頭非道之取扱有之訴出、類ハ可為格別事

御定書

- 一 親子兄弟其外之親類_(四七ウ)も御咎 御免之願ハ再應願
出、共不及咎事

右同

- 一 惣而願之儀筋違江申出ル者其筋之支配頭江願出、様ニ申
付ル_(四七ウ)上再應申出、者其筋江遂對談難立願ニ而無取上部
ハ其「筋之支配頭ニ而相應之咎可申付事

但難立願奉行支配頭ニ而無取上旨申渡ル処同役江右之
趣「於申出者寺院ハ押込町人百姓ハ戸ノ又ハ過料可申
付事」

右同

- 一 親類縁者之由ニテ訴状差出ル前當人難願出訳も無之
ル者當人江為願可申旨申渡取上申聞敷事

右同斟酌

- 一 難立願度々箱訴致シ御咎被仰付 弘前住居之者ハ弘前拂
ル処又ル右之儀訴状入ル者 在方九浦之者ハ弘前御拂

寛政之御例斟酌

- 一 無名之訴状投文致ル者 敲十八 所拂
但訴訟之趣取上ケ沙汰致聞敷事

○不實之事ヲ訴ル者御仕置之事

(一一八)

寛政之御例斟酌

- 一 不實之事ヲ申出 敲三ノ罪ヲ訴出、者ハ敲六ノ刑ニ可行
人ヲ罪ニ落サン 事何レモ「申出、刑ノ一等重ク可申付
ト_(四)キル者」 事但死罪之「事ヲ訴出、者ハ徒一年半

敲三十三ニ可申付事

四十八

(四八オ)

○御定書ニ遺恨ヲ以人之惡事偽之儀ヲ認張札亦ハ捨文

致シル者死罪ニ可及程之義ヲ認ルハ、中追放

○御褒美取_(五)遍_(六)キ功ニ而偽之訴人致ル者敲之上中追放

○人ヲ殺ル旨申懸致ル者一通之申懸ニルハ、重追放但_(七)キ
巧事ニ「有之ルハ遠嶋猶品重キハ死罪ト御座ル得共寛

料

政之御」例斟酌仕左之通相定申

寛政之御例

資

- 一 若被訴人御沙汰既ニ極リ其罪ニ被行ハ後不實之事頭
ハ得者罪ニ被行ハ者之刑ハ三^本重ク可申付事
- 但敲三十徒老年ニテ許可申事尤被訴者死罪被ニ行
ハ得ハ獄門

右同

- 一 若ニケ条訴ハ萌輕キ事ハ實ニ而重キ事ハ偽リ或ハ一事ニ
テ」茂輕キ事ヲ重ク申出ハ者敲數之内實事之分を差引
殘ル敲數ヲ以刑ニ行ハ事

○主人ヲ訴ル者并親族相訴ル者御仕置之事

〔一一九〕

御定書寛政之御例斟酌

- 一 主人并親之惡事訴出ル者 敲三十里追放 訴之趣取上
不申事」

但上江懸リハ重キ儀ハ可為格別事

〔四八ウ〕

寛政之御例

- 一 右同惡事有之旨偽申出ハ者 斬罪

御定書

- 一 主人親非道之品有之難儀之由申之宥免之事願出ハハ、村

役名主并親類之者呼出取斗ヒハ様可申付事

寛政之御例斟酌

- 一 祖父母惡事有之旨訴ル者并妻トシテ夫 敲二十七
又ハ夫之父母惡事有之旨訴出ル者 七里追放

但被訴ル者ハ科人自身申出ハニ準右ケ条ヲ以捌可申事
若又上ニ拘リハ重キ義カ亦ハ非道之義有之不得止事
申出ハハ、可為格別事尤訴出ル惡事偽ニハハ、平人不
實」之事を訴出ハ罪ヨリ三等重ク可申付事

寛政之御例

- 一 伯叔父姑兄姉惡事有之旨訴出ル者 敲十五
但事前書同断

○父祖之教ニ背ル者御仕置之事

〔一二〇〕

右同

- 一 祖父母父母之教ニ違ヒ或ハ 敲十五

養育ヲ欠ル儀有之者

〔四九オ〕

但祖父母父母之申出ニ寄刑ヲ加ハ事

○訴訟之腰推致シル者御仕置之事

〔一二一〕

- 一 訴訟之腰推致シ或ハ人ノ為ニ 本人同罪尤徒老年半敲三

訴訟ヲ作り人ヲ罪ニ落サント 十「マテニテ訴可申事致ひ者」

○強訴御仕置之事

〔一二一〕

寛政之御例

- 一 願難相立儀ヲ大勢致徒黨支配 頭取敲廿四 五里追放
- 一 願難相立儀ヲ不相用於強訴者 加擔人敲卅一三里追放
- 但加擔人之外一通之餘黨ハ吟味之上阿亦ハ御用捨之事

御定書斟酌

一 右同仕方ニハ共支配頭非分有之ハニ付於強訴ハ 本罪ハ二等輕ク可申付事

○御定書ニ地頭江對シ強訴其上徒黨致シ逃散ハ百姓御仕置」頭取死罪 名主重追放 組頭田畑取上所拂 惣而百姓村一方ニテ應過料

但地頭申付非分有之ハ其品ニ應シ一等も二等も輕ク可相」伺未進於無之者重咎ニ不及事

右之通御座ハ得共御定書ハ地頭江對シ格別之不法

ニ付右駄敵重ニ被仰付、儀ト奉存ハ間寛政之御例之通

ニ而」可然奉存ハ

○密通御仕置之事

〔一二三〕

寛政之御例

- 一 密通不義之儀ハ何連も姦所ニおゐて見届慥なる證摺有之夫或ハ親族より申出ニ寄沙汰可致事外ハ訴ハ御取上無之

御定書寛政之御例

一 密通御仕置妻妾都而無差別

但下人主人之妻ト密通致ハ分者其ケ条ニ其捌有之事

御定書

一 密通致シハ妻并男

死罪

寛政ニハ男女共敲三十ト御座ハ得共輕キ様ニ奉存ハ間

御定書」隨ヒ申ハ

右同斟酌

一 夫有之女江密

敲廿七

七里追放

通ノ手引致ハ者

〔五〇オ〕

御定書寛政之御例

一 密通致シ實父ヲ殺ハ者

女ハ引廻之上 磔

男相勸ハ欺又ハ手傳致ハ得ハ

獄門」

但若男之手段而已ニ而女謀ヲ不知といへとも女ハ斬罪

又女之「手段斗ニテ男其謀ヲ不知時」之男斬罪

一 同仕形ニテ實之夫江疵付ル者 男女共 獄門

但書前同斷

此ヶ条御定書ニ密夫致シ実ノ夫江疵付ル者獄門ト御座ル而男女之訳相分不申ルニ付右之通沙汰仕相定申ル

御定書寛政之御例斟酌

姦通之処ニ於テ見届則時

一 密通之男女共ニ夫切殺ルハ、ニ殺ルハ、無構

但其場ヲ立去ル後訴茂無之我假ニ殺ル者ハ喧嘩ニテ人ヲ「殺ルト同様之事

御定書

一 密夫ヲ殺妻存命ニルハ、妻 死罪

但若密夫逃去ルハ、妻ハ夫之心次第可申付ル

右同

一 女同心無之ニ密通ヲ申懸或ハ家内江忍 男女共無構

入ル男ヲ夫殺ル時不義申懸ル證拠於分明ハ

(五〇ウ)

寛政之御例斟酌

本夫姦夫共 徒壹年半敲三十

一 妻ヲ許ルテ密通

女ハ生涯縁談相構親元江預置尤親元

致セル者

無之者ハ牢舎壹年半

御定書

一 主人之妻ト密通致ル者 男引廻之上獄門 女死罪

寛政之御例斟酌

但主人之妾ト密通致ル者 男女共死罪

〇右ヶ条寛政ニ主人之妻ト密通致ル者ハ斬罪妾ト密通

致ル者ハ一等輕ク可申付ト御座ル得共御定書斟酌仕右之通「相定申ル

御定書斟酌

一 主人之妻江密通之手引致ル者 徒壹年 敲三十

御定書ニハ死罪ト御座ル得共主人之妻ト密通致ル者ハ

獄門ト「御座ル処手引斗ニテ死罪ニテハ不相當ニ奉存

ル隨而平人夫」有之女江密通之手引之者之刑より三等

ヲ加ヘ徒壹年」敲三十ニ而可然奉存ル

御定書斟酌

一 主人之娘ト致密通ル者 男敲二十四五里追放

娘叱之上親元江相渡

御定書

一 同密通之手引致ル者 所拂

(五一オ)

五十一

御定書

一 養母養娘并嫁ト致密通ル者 男女共 獄門

右同

一 姉妹伯母姪ト致密通ル者 男女共乞食手下ケル様

寛政之御例

一 夫無之女ト致不義ル者 男女共 敲九

右ケ条御定書ニ夫無之女ト密通致シ誘出ル者ハ女ハ親

元江」返男ハ手鎖ト御座ル而外ニ夫無之女ト致不義ル

刑無御座ル間」寛政之通ニテ可然奉存ル

御定書

一 縁談極ル娘ト致不儀ル者

見届ル段於無權ハ紛

男并娘共ニ切殺ル親」

無搆

御定書斟酌

一 縁談極ル娘ト致不義ル男

敲十八 所拂

但女ハ髮ヲ剃親元江相渡

右同

一 夫有之女得心無之ニ押而致不義ル者 獄門

但大勢ニテ致不義ルハ、頭取獄門同類敲三十里追放

御定書寛政之御例斟酌

一 夫無之女得心無之ニ押而致不義ル者

敲三十里追放
(五一ウ)

右同

一 幼女江致不義怪我為致ル者

徒一年半敲三十

右ケ条御定書ニ遠嶋寛政ニ敲三十ト御座ル

御定書斟酌

一 夫有之女江艶書ハ度々取替ル得共

密會不致義於無紛者

男女共五里追放

御定書斟酌

一 離別状ヲ不遣後妻ヲ呼ル者

所拂

但利欲之筋ヲ以之儀ニルハ、家財取上之上町拂組拂

右同

一 離別状ヲ不取他江嫁ル女

髮ヲ剃親元江返

但右之致取持ル者過料壹貫五百文ツ、

右同

一 離別状無之女他江縁付ル親元

過料三貫文

○女犯之僧御仕置之事

(一一四)

御定書

一 密夫之僧

寺持所化僧之無差別 獄門
(五二オ)

御定書斟酌

一 夫無之女ト不義之僧

寺持之僧脱衣 十里追放
大場御搆」

料

右同

- 一 同所化僧之類
- 一日晒ノ上本寺觸頭江相渡
寺法之通可為致事

資

寛政之御例

- 一 僧ト密通不義之女ハ平人姦通之刑ヲ以御仕置之事

右同

- 一 尼密通之者ハ平人姦通之罪ニ一尋ヲ加ヘ還俗為致事
但男ハ平人姦通之罪ニ行ヒ事

○男女申合相果^果ル者御仕置之事

〔一二五〕

御定書安永寛政之御例斟酌

- 一 不義ニテ致相對死ル者

死骸取捨為吊申間敷事

安永寛政之御例

但女相對果^果男存命ニルハ、下手人男相果^果女存命ニルハ、

不^レ及下手人三日肆之上乞食手江相渡可申事

御用人点羽此ヶ条女も可為下手人事

○御定書ニ一方存命ルハ、下手人ト御座ル得共安永寛政之^レ御例ニ隨ヒ女存命ニルハ、乞食手ヘ相渡、様相定申ル

御定書安永寛政之御例

- 一 男女存命ニルハ、三日肆之上乞食手江下ケル様
〔五二ウ〕

右同

- 一 主人ト下人致相對死下人相果^果主人存命ニルハ、

乞食手江下ケル様

安永寛政之御例斟酌

但下人存命ニルハ、死罪

○隱賣女御仕置之事

〔一二六〕

寛政之御例

- 一 御免場之外隱賣女抱置致渡世ル者

敲三

御定書斟酌

- 一 同五軒組合之者

過料三貫六百元

右同

- 一 同名主

叱り

隱賣女之儀御定書ニ色々御仕置御座ル得共御国表ニ而為差^レ御取扱ニ相成ル儀も無御座ル儀前書之通ニ而可然奉存ル

○捨子之義ニ付御仕置之事

〔一二七〕

御定書

一 金子ヲ添子ヲ貫其子ヲ捨ル者 引廻之上 獄門

五十三 但切殺ノ殺ニおゐてハ引廻之上磔 (五三ウ)

御定書斟酌

一 捨子有之ヲ内證ニテ隣町ホヘ 當人所拂

捨ル儀於顯ハ 五軒組合過料一貫八百文 名主同三貫六百文

但吟味之上名主五軒組合不存儀於無紛ハ無構

○博奕御仕置之事 (二二八)

御定書寛政之御例斟酌

一 博奕打ル者 過料三貫六百文

但其場之金錢ハ没収可致事尤其場ニ居合之者之外

同類有之共ニ僉議ニ不及事

右ヶ条御定書ニ家財家藏取上程之過料家藏無之

者ニ五貫文或ハ三貫文過料ト御座ル安永ニ中ノ追放ト

御座ル寛政ニ敲三ト御座ル得共過料錢ニ仕ルハ、御

座ニ相成ニ可申奉存、儀御定書ニ隨ヒ右之通相定申ル

安永寛政之御例

一 同宥致ル者 本人同罪

右ヶ条御定書ニ博奕打筒取并宿遠嶋ト御座ル然ハ

御定書之博奕打筒取并宿致ル者ハ大博奕故格別

嚴敷被仰付、儀ト奉存ル安永寛政之御例之通本人

同罪ニ而可然奉存ル (五三ウ)

寛政之御例

一 同五軒組合之者共 過料三貫六百文

右ヶ条御定書ニ身上ニ應シ過料ト御座ル得共寛政之御

例ニ之通本人相當之過料ニテ可然奉存ル

前々右之御例斟酌

一 同村役町役 村役過料町役戸ノ之儀凡例ニ有之

御定書寛政之御例

一 輕キ賭之宝引よみかる、打ル者 戸ノ三十日

御定書斟酌

一 同宿致ル者 過料一貫五百文

追加

一 同村役町役并五軒組合之者共叱リ

右同

一 博奕再犯之者 一倍之過料

但再犯以上ニ至リ其処ニ難差置者ハ時宜御沙汰之事

料 ○御用事を頼合致ゆる者御仕置之事

〔二一九〕

寛政之御例

資

一 御用事ヲまげて頼合致ゆるもの戸ノ廿日頼ゆる者并頼ヲ受ゆる者五十四七

者」同罪之事若事既ニ施シ行ヒ得ハ頼ヲ受ゆる者五十四七ノ頼
ハ其事親類朋友之為ニ得ハ頼ヲ受ゆる者二等ヲ減
遍シ」自分之為ニ得ハ頼を受ゆる者一等重ク可申付事
若まけ」ハ事重ク得ハ依怙遺根ホヲ以人之罪ヲ増減致
シハケ條」を以刑ヲ加ヘ可申事はカ為ニ賄賂ヲ取ル得ハ
賄賂ヲ取不筋ノ」擲扱致ルケ條ヲ以刑ヲ加ヘ可申事

○失火御仕置之事

〔二三〇〕

寛政之御例

一 失火致シゆる者 戸ノ廿日 類焼有之ハ得ハ戸ノ三十日
右ヶ條御定書ニ 御成日小間十間以上焼失并平日三町
ノ」以上焼失之節火元五十日手鎖火元之地主家主月行
事」三十日押込同五人組二十日押込 御成日ニテモ小
間十間ノ」以下之焼失ニハ、不及咎ト御座ル得共是
迄之通トて」可然奉存ル

寛政之御例

一 失火ニテテヲ焼失致セル者

敲十五

但一家之内誰ニテモ手あやまち致シゆる者江刑ヲ加ヘ可
申事」

〔五四ウ〕

右同

一 諸役所并御蔵内ニおゐて失火
致ゆる者節手あやまち致ゆる者

敲二十四 五里追放

○野火御仕置之事

〔二三一〕

文化三寅年御例

一 山野野火附ゆる者 住居之町在引廻之上 敲十五
但本人不相知時ハ其領分之村所過料為差出ル事過料之
定郡方別帳條例有之事

右同

一 同本人召捕亦ハ致訴人ゆる者

御褒美錢三十貫文

○御留場ニテ鳥殺生致ゆる者御仕置之事

〔二三二〕

御定書斟酌

一 御留場ニテ鳥殺生致ゆる者

過料壹貫八百文 村役戸ノ五日

○於御停止場鉄砲打ゆる者御仕置之事

〔二三三〕

右同

一 於御停止場鉄砲打ハ者
五十五

敲三

〔五五オ〕

○御觸ニ背ル者御仕置之事

〔一三四〕

寛政之御例

一 御觸ニ背ル者 事輕キハ戸ノ十五日 重キハ戸ノ三十日

○科人手向致ス者御仕置之事

〔一三五〕

右同

一 科人逃去捕手之者江手向致ス者 本罪ハ二等重ク

可申付事

但疵付ケル得ハ平人打擲ニテ疵付ケルケ条江引合ニ等重ク
可申付事尤折傷以上ニ至ハハ、可為斬罪事

○囚人出奔致スル者御仕置之事

〔一三六〕

寛政之御例

一 牢破并預之内繩解キ出奔致ス者 本罪ハ二等重ク

可申付事

右同斟酌

一 牢舎之者并町預 日數三十日之内ニ捕ル儀申付若捕

村預之者ヲ不覺ニテ 兼ニル節ハ科人之罪ニ三等輕ク可

取通ル番人并宿 申付事ハ尤宿ハ亦一等輕ク可申付

事

但態ト遁ル得ハ科人同罪

○右ヶ条御定書ニ牢ヲ拔出ル者并宿預之者致欠落ルハ、
本罪ハ一等重ク可申付事但牢番人中追放ト御座ル得共
〔五五ウ〕

寛政之通ニ而可然奉存ル

但書之ヶ条御定書ニハ態ト逃ルシル者過料手鎖外シ遣

ル者過料但シ手鎖外シル者致欠落ルハ、輕追放右同

預ル家主過料但シ手鎖者ト致欠落ルハ、預家主江

尋申付不尋出、ハ、重キ過料ト御座ル得共科人ヲ逃スシ

遣、儀ハ」重キ科ニ付本人同罪ニテ可然奉存ル

○徒刑之者再犯御仕置之事

〔一三七〕

御定書斟酌

一 徒刑之者死罪以上之悪事致スニおゐてハ 死罪

追加

一 同徒刑ヲ犯ス者 於其場敲三十 徒ノ年限増苦使

為致ス事

但徒ノ年限相増也而も二年ニ過へからざる事

追加

一 同右以下罪ヲ犯シ也者 御定之通刑ヲ加へ本ノ如ク

苦使為致也事

○科人為立退并住居ヲ隱也者御仕置之事

〔一三八〕

御定書安永ノ御例斟酌

一 上江對シ重キ謀計之者并主殺親殺之者同類ニ無之共其者

五十六

ニ「被頼乍存住所ヲ隱或者立退セ也者亦ハ右躰之者致出奔御」尋之節乍存開置或ハ召使ホニ致シ不訴出者〔五六才〕死罪

但乍存請ニ立也者同罪尤吟味之上不存ニ相決也共主人

請人共過料三貫文

右ケ条御定書ニハ獄門ト御座也得共惡事有之者ヲか津〔三〕

ひ」也一通之罪ニ御座也間死罪ニ而可然奉存也

御定書斟酌

一 火附

一 盜賊之上ニテ人ヲ殺也者

一 追剝之類

一 致徒黨人家へ押込也類

右之科人同類ニハ無之也共其者ニ被頼住居ヲ隱為立退也

者早」速牢舎申付其親類之者江尋申付科人捕出、ハ、出牢之上」徒老年半敲三十二可行事

○右本ケ条御定書ニハ死罪ト御座也得共右之者死罪ニ相成也後」科人出御刑法ニ被行也節取初為立退也者活命難相成儀ニ御」座也人命ハ大切之儀ニ御座也間弥見出不申也ハ、永牢被仰付」可然奉存也

但右之外科有之御僉議之者ヲ乍存隱置或ハ其事ヲ告知らせ遁也者科人之罪也一等輕ク可申付事〔五六ウ〕

御定書斟酌

一 御構有之者ヲ御構 町方ノ者ハ戸ノ三十日

之地江隱シ置也者 在方ノ者ハ過料壹貫八百文

○無宿者御片付之事

〔一三九〕

御定書斟酌

一 無宿者有之節可相渡所縁有之者 引取人呼出可相渡

但親元親類無之也而モ町在九浦出生ト申儀髓ニ而惡事

無之者ハ出生町出生村へ相渡可申事尤村方ニ而難引取

子細有之分ハ乞食手下ケケ様

前々之御例

一 他領出生無宿者 手寄之御関所江送返可申付事

○御裁許不請者御仕置之事

〔一四〇〕

御定書斟酌

- 一 御裁許不請者 敲十八所拂

右同

- 一 御裁許相済儀を内證ニ而破ル者 敲十八所拂

〔五七〇〕

○不縁之妻ヲ理不盡ニ奪取ル者御仕置之事

〔一四一〕

御定書斟酌

- 一 智養子不孝不埒是あり差戻ル以後外之養子致シ娘嫁合ル節先夫荷擔人ヲ催參娘ヲ於奪取ハ 當人徒一年半 敲三十荷擔人所拂

○変死之者ヲ内證ニテ葬ル寺院御仕置之事

〔一四二〕

御定書斟酌

- 一 変死之者ヲ内證ニテ葬ル寺院 五十日 禁足

○倒死并捨物手負病人ホ有之ヲ不訴出ヲ御仕置之事 〔一四三〕

御定書斟酌

- 一 倒死并捨物ホ有之ヲ 當人并地主家主共過料二貫文 押隠シ於不訴出ハ 五軒組合同「壹貫文 村役町役同

二貫文

但地主家主五軒組合於不存ハ無構在方同断

右同

- 一 変死并手負ル者ヲ隱置不訴出其外病人ホ隣町江送遣ルニおるてモ

前 同断

但前同断

〔五七〇〕

○人之罪ヲ輕重致シル者御仕置之事

〔一四四〕

寛政之御例

- 一 依怙遺恨ヲ以人之罪ヲ致輕重ル者其増減致ル所ヲ以 其分之罪ヲ加ヘル事若或ハ全隱置全偽ル得ハ其本罪ヲ以 刑ヲ加ヘル事

○御仕置仕形之事

〔一四五〕

御定書

- 一 鋸引 一日引廻シ両之肩ニ刀目ヲ入竹鋸ニ血ヲ附側ニ立」置二日肆挽可申ト申もの有之時為挽ル事」

料 右同斟酌

一 磔

資

御定書斟酌

一 獄門

取上於御仕置場獄門ニ懸ル引廻捨札番人
右同断

右同

一 火罪

五十八

引廻之上取上御仕置場ニおゐて火罪ニ可申付
捨」札番人右同断
但物取ニ無之火附不及捨札火を付ケル居村居
町」引廻之上火罪可申付事
(五八)

御定書斟酌

一 斬罪

取上御仕置場ニおゐて斬之

右同

一 死罪

於牢前前首ヲ刎死骸取捨
附下手人同断之事

右同

一 肆サカシ

肆場所之儀追而伺書ヲ以可申上ル

寛政之御例

一 從刑従刑
スケイ

取上御仕置場ニおゐて敲三十被行銅鉛山江差
遣」年限之通苦使為致ル事尤年限之通苦使
相濟ル旨銅鉛山懸リ役ヲ申出、処ニ而伺之上
下山」可申付事

但其者ニ寄下山之節弘前并徘徊并居村居
町大場ニ徘徊御構可被仰付者ハ苦使相濟ル旨
断申出、節右之趣懸リ役ニ而渡之上下山被
仰付、儀其度ニ相伺可申事

寛政之御例

一 追放

十里追放之者御構之大場

九浦 飯詰 板屋野木 木造 浅虫 黒石
追加

(五八ウ)

金木 五所川原但平井 喰川 油川 浪岡 藤崎
栢原氏

但在浦之者追放者勿論所拂之者共弘前御構可被仰付
事」

四奉行点羽

御構之場所前ニ御定之外當時御構可被仰付場所之儀
右追加ニ申上ル通被仰付方之儀別段ニ伺書差上申ル

御用人点羽

大場之儀ハ是迄之通被仰付、様

前々之御例

一 弘前拂 弘前惣町拂

右同

一 所拂 在方ハ居村拂町ハ居町拂

右同

組拂 其志組御構

御定書

一 追院 住居寺江不能帰申渡ゆ処る直ニ拂遣之

右同

一 退院 住居寺之寺ヲ可退旨申渡之

五十九 御定書

一 一宗構 其宗旨ヲ構

右同

一 一派構 其一派ヲ構同宗ニテモ外ノ派ニ成ヽ得ハ無構

寛政之御例

一 鞭刑 三敲る三十敲迄

當時敲ト云

右同

一 戸ノ 五日る三十日迄

右同

一 過料 六百文ハ四十二貫文迄

但盗杣之過料ハ伐木ノ高ニ應シ過料可申付事

右同

一 入墨 於牢屋

但入墨之儀跡癒体而出牢

御定書并前々之御例

一 二重御仕置

敲之上

敲之上

同

役義取上ケ

過料之上

御定書斟酌

一 盲人御仕置

右同

一 座當御仕置

座當頭江科之次第申聞座法ニ可申付旨
申渡

(五九ウ)

料 右同

一 乞食手下

乞食頭江相渡

右同

資

一 乞食御仕置

乞食頭江相渡仕置可致旨申渡

〔四行分空白〕

六十

〔六〇オ〕

本書について、弘前市立図書館の目録には、

要記秘鑑「三橋左十郎」(定軌) 編 K二〇九一一

写 一八冊 半紙 和

註：儀式法令作法その他藩政の事例を類別して年代順に

編纂したもの

内容：第三一 御刑法牒(文化御改 御刑法定例)

と記す(原文は横書き、洋数字)。

本書の体裁は縦二三・一センチ、横一六・三センチで、表紙は茶渋色の厚紙を前後に当て、袋綴の目録五丁と本文六〇丁を青糸で四目綴じする。

表紙には、本文と同筆で、左端上半に縦に「要記秘鑑 三十一」、右端上寄りへ縦に「御刑法牒」と墨書する。また蔵書票がいくつも見られる。

中央上寄りに、半紙を縦六・八センチ、横五・五センチの四角に切り、四隅を斜めに切り落とした票が一枚貼られている。その上に弘前図書館の蔵書票が貼られたため、何が記されているか不明である。

弘前図書館の蔵書票は、縦四・三センチ、横三・〇センチで上から横書で五段にわたって、「主綱／郷土 要目／要秘 棚／一八 冊／全14冊12巻 弘前図書館」と記す。この主綱の欄

から朱筆で斜線を引き、右上に「雑」と記す。

この票の下半から下方にかけて、横長楕円形の「弘前市立／弘前図書館／図書之印」が青インクで捺されている。

また右下隅の旧ラベルの上に、新しいラベル「KK二〇・九／ヨウ／三二」(原文は洋数字) が貼られている。

目次第一丁表には、右先端にわら半紙の付箋が貼られ、上半を欠くが、左のように記されている。

発布たるは
と言ふ、其の写
録を載せし

また右下隅に長方形朱印が捺され、隅書で数字等が記入されている。

明治「四十」年「八」月「六」日購求
代金「十八冊 拾五円」

目次は各表題の上に所在丁数を「一枚目、二、三、……」のようにしている。今回の文化律の番号は、これにもっぱら従っ

ている。

本文第一丁表の右上、冒頭に方形の館蔵朱印がおされている。印文は左の通である。

青森縣弘
前市立弘
前図書館

右下隅には横長の長方形朱印が捺され洋数字等を記入する。

登録 旧「一四九四五」號
「明 四〇」年「八」月「六」日受入 (原文は洋数字)

また、その上のペン書きでK209/2と横書きされている。

全文同筆であることは、すでに述べたが、朱筆は各表題の上に朱で○印を付す以外に見られない。各丁折目、表側の左上隅に「一、二、三、……」と丁数が付されている。

本文墨付は、六〇丁表までで、六〇丁裏には右下隅に番号印が捺され、洋数字で「二三〇一八五〇七」と記す。

また重ね積みに備え、本の底(小口)には右から左へ「御刑

料

法帳二と太く墨書する。これに対応する「二」または「三」以下については未確認である。

各条文に付された脇書を掲げておく。

資

寛政之御例(一) 二 三 五 六 七 一 一 一 二 一 六

一七 二〇 三二 三六 四八 五四 五五 五七 五九

六一 六二 六三 六五 六六 六七 七一 七二 七三

七四 八〇 八六 八八 九〇 九二 九四 九五 九六

九七 九八 九九 一〇〇 一〇五 一〇八 一〇九

一一〇 一一一 一一二 一一三 一一五 一一八

一一九 一二〇 一二二 一二三 一二四 一二六

一二七 一二九 一三〇 一三四 一三五 一三六

一四五)

御例寛政(六〇)

寛政之御例斟酌(一) 八 一〇 一三 一四 一五 一八

三二 三四 四七 五三 五五 五六 五九 七二 七五

七八 八三 八四 八五 八七 九二 九六 一〇八

一一二 一一三 一一四 一一七 一一八 一一九

一二三 一三六)

安永之御例(六一 九二)

安永之御例斟酌(九二)

安永四年公義江御問合之点羽斟酌(七六)

安永寛政之御例(九〇 九一 九二 一二五 一二七)

安永寛政之御例斟酌(七〇 七四 七六 九一 九二 九七

一二五)

寛政之御例並文化元年之御例斟酌(二)

文化元子年御定(六九)

文化三寅年御例(一二二)

文化四卯年之御例(五二)

前々之御例(七)

前々より之御例(五二 一三九 一四五)

前々より之御例斟酌(二二八)

御定書(一) 二 三 八 九 一八 二一 二二 二四 二五

二九 三〇 四二 四三 四四 四六 五四 五八 五九

六四 六六 六九 九一 九二 九三 九六 九七

一〇三 一〇四 一〇七 一〇八 一一七 一一九

一二三 一二四 一二七 一四五)

御定書斟酌(四) 一八 一九 二三 二五 二六 二九 三四

三五 四二 四四 四五 四九 五〇 五一 五四 五七

五八 五九 六六 六七 六八 七五 七七 七九 八一

八二 八九 九一 九二 九六 九七 一〇二 一〇六

御定書並安永寛政之御例(五九)	一四八	一一七	一二二	一二三	一二四	一二六
御定書安永之御例(三 五九 一三八)	一二七	一二八	一三二	一三三	一三七	一三八
御定書安永寛政之御例(六九 九一 九二)	一三九	一四〇	一四一	一四二	一四三	一四四
御定書安永寛政之御例(二八 五四 五九 九二 一〇〇 一二五)						
御定書並安永寛政之御例(九一)						
御定書寛政之御例(一二三 一二八)						
御定書寛政之御例(七六 八〇 九〇 九一 九二 九七 一〇三 一〇八 一一七 一二三 一二八)						
御定書並前々より之御例(一四五)						
御定書並前々之御例(二七)						
追加(二 二七 三四 三七 三八 三九 四〇 四一 四四 五二 五五 六〇 七〇 七二 七四 七五 七八 九一 一一六 一三七)						
御用人点羽(一〇五)						

註
 (43) 弘前市立弘前図書館『弘前図書館郷土資料目録第五卷 弘前図書館一般郷土資料目録』(昭和四〇年、一八〇一九頁。本稿(八)に前掲。ただし請求記号はKK二一〇・九/ヨウに改められている。

